

平成29年度
消防防災年報

福 井 県
＜平成30年刊行＞

はじめに

本年は、昭和23年に消防組織法が施行され自治体消防制度が誕生してから、また福井地震から70年を迎える節目の年です。この間、本県の消防防災体制は、関係各位のたゆまぬ努力により着実に充実強化されてきており、地域住民の安全・安心の確保に大きな役割を果たしているところです。

近年、我が国の災害は大規模化、複雑化の様相を呈しております。本年もこれまでに大阪府北部の地震、平成30年7月豪雨など様々な災害が発生し、甚大な被害をもたらしました。本県においても、2月には嶺北地方を中心に大雪となり、県民生活に多大な影響が及んだところです。

このような状況にあつて、消防防災行政に寄せられる期待はますます大きくなっており、災害や事故に的確に対応し、住民の生命、身体および財産を守るためには、住民と行政が一体となって、地域防災力の充実強化を推進していく必要があります。

県においては、消防防災の基本である災害発生予防や初動対応の充実を図るため、消防団や自主防災組織の育成強化を図り、自助、共助、公助のバランスのとれた、安全で安心できる社会の実現を目指しております。

今後とも消防防災行政の推進について、より一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、この消防防災年報は、市町および消防本部等関係機関からの報告をもとに平成29年度における消防、防災、保安行政の現況を取りまとめたものです。各方面で、消防防災に関する参考資料として活用され、安全で安心な地域づくりの一助となれば幸いです。

平成30年8月

福井県安全環境部危機対策・防災課

課長 谷口 竜哉

目 次

〔消 防 編〕

第1章 消防の概要

第1表 福井県常備消防体制	1
第2表 消防の概況表	2

第2章 火災の実態

1 概況	4
2 出火件数および損害額の状況	4
3 出火原因	4
4 火災による死者の状況	5
第1表 1日当たりの損害状況	5
第2表 平成29年火災発生状況と前年比較表	6
第1図 過去10年間の出火件数と損害額の推移	7
第2図 過去10年間の死傷者数の推移	7
第3図 火災発生件数の内訳	8
第4図 うち建物火災件数の内訳	8
第5図 損害額の内訳	8
第3表 平成29年月別火災発生状況表	9
第4表 市町別火災状況	10
第5表 市町別月別火災発生件数、損害額および出火率	12
第6表 全火災の出火原因別損害状況表	14
第6図 全火災の出火原因別状況	14
第7表 死者の死因別発生状況表	15
第8表 死者の経過別・年令別発生状況表	15

第3章 救急業務の実態

1 救急体制	16
2 救急医療体制	16
3 救急活動状況	16
第1表 救急体制状況表	17
第2表 医療機関状況表	17
第3表 救急活動状況表	17
第4表 高速自動車道における救急活動状況表	17
第1図 過去10年間の救急活動の推移	18
第2図 出場件数の事故種別内訳	18
第3図 搬送人員の事故種別内訳	18

第4章 予防行政の概況

1 防火対象物定期点検報告制度	19
第1表 防火対象物定期点検報告制度実施状況表	19
2 消防設備士試験・講習の状況	20
第2表 消防設備士試験実施状況表	20
第3表 消防設備士義務講習実施状況表	20

第5章 危険物規制

1 概況	21
第1図 危険物施設構成比	21
第2図 過去10年間の危険物施設の推移	21
第1表 施設別危険物施設数	22
第2表 指定数量別・類別危険物施設数	23

第3表	危険物施設に対する立入検査状況	24
第4表の1	容量別屋外タンク貯蔵所数	25
第4表の2	品名別屋外タンク貯蔵所数	25
第5表	危険物取扱者試験実施状況	26
第6表	危険物取扱者保安講習実施状況	26
2	危険物施設の火災・漏えい事故等	27
第7表	過去5年間の危険物施設における災害事故発生件数	27

第6章 消防の概要

1	消防の組織	28
2	消防施設	28
3	民間防火組織	28
4	表彰	29
5	消防の現況	29
第1表	消防職団員数の推移	29
第2表	消防機関の現況	29
第3表	消防の概況	30
第4表	階級別消防職員数	31
第5表	階級別非常勤消防団員数	32
第6表	年齢別消防吏員・消防団員数	33
第7表	在職年数別消防吏員および消防団員数	34
第8表	消防ポンプ自動車等現有数（消防本部・署）	35
第9表	消防ポンプ自動車等現有数（消防団）	36
第10表	化学消火薬剤備蓄状況	37
第11表	消防水利の状況	38
第12表	消防機関の出動状況	39
第13表	消防吏員・団員の公務による死傷者数	39
第14表	火災通報施設等の現況	40
第15表	無線通信施設等の現況	41
第16表	幼年消防クラブの現況	42
第17表	少年消防クラブの現況	43
第18表	女性防火クラブの現況および活動状況	44
第19表	消防表彰受賞状況	45

第7章 消防教育訓練

1	消防学校の概要	46
2	教育訓練	46
第1表	平成29年度消防本部(局)別受講者数	47
第2表	平成29年度消防学校教育訓練実施状況	48
第3表	平成29年度消防大学校派遣者数	48

[防災編]

第1章 災害の発生状況

1	平成29年中の災害発生状況	49
第1表	平成29年中の災害発生状況	49
2	過去5年間の災害発生状況	51

第2章 平成29年の天候概況

1	天候の特徴	62
2	月別気象概況	63

第3章 防災訓練の実施状況

I 総合防災訓練	66
II 過去5年間の総合防災訓練等の実施状況	69
III 市町別自主防災組織の結成状況	70

第4章 平成29年度防災行政無線利用状況

1 無線局の現況	71
2 利用状況	73
3 多重局通信回数集計表	75
4 端末局無線通信回数調	76
5 非常通信訓練実施状況	77

第5章 防災ヘリコプターの運航体制

1 運航基地	80
2 組織図	80
3 運航時間	80
4 活動業務	80
第1表 福井県防災ヘリコプター運航実績表	81

第6章 衛星車載局の運用体制

1 収容	82
2 運用組織図	82
3 運用	82
4 主な仕様	82

〔保安編〕

第1章 高压ガス保安

概況	83
第1表 市町別高压ガス関係事業所数	84
第2表 ガスの種類別高压ガス製造事業所数	85
第3表 処理量別・製造形態別製造事業所数	86
第4表 高压ガス貯槽数	87
第5表 平成29年度高压ガス製造保安責任者試験実施状況	88
第6表 平成29年度高压ガス販売主任者試験実施状況	89
第7表 平成29年度液化石油ガス設備士試験実施状況	89
第8表 平成29年度高压ガス関係免状交付状況	89
第9表 平成29年度高压ガス関係申請状況	90
第10表 平成29年度高压ガス事故発生状況	91

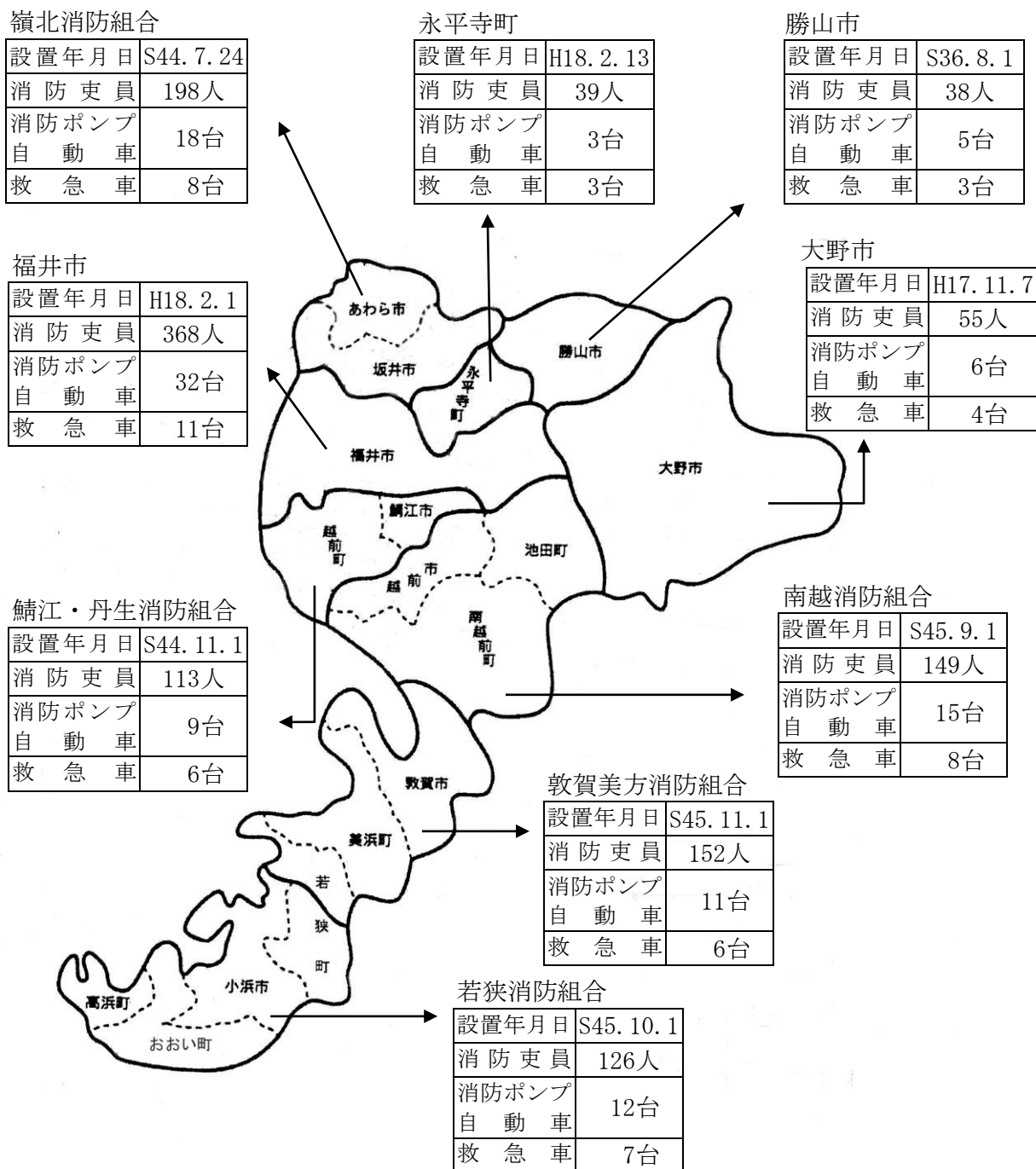
第2章 火薬類保安

概況	92
第1表 火薬類関係事業所等数	92
第2表 鉄砲関係事業所数	93
第3表 火薬類（爆薬）の消費量の推移	93
第4表 火薬類取扱および丙種火薬類製造保安責任者試験実施状況	93
第5表 平成29年度火薬類保安講習関係講習会実施状況	93
第6表 平成29年度火薬類許可申請等の状況	94
第7表 平成29年度事故発生状況	95

消 防 編

第1章 消防の概要

第1表 福井県常備消防体制(平成30年4月1日現在)



※台数については、消防団分を含まない

第2表 消防の概況表

面積（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」H29. 10. 1現在）		4,190.51 km ²	
平成27年国勢調査(確定値) 人口		786,740 人	
推計人口(平成30年4月1日現在)		774,407 人	
推計世帯数(平成30年4月1日現在)		284,464 世帯	
65才以上高齢者数(福井県の推計人口 平成30年4月1日現在)		229,315 人	
高齢化率（ ” ” ）		30.0 %	
地域別人口	福井坂井地区(平成27年国勢調査 確定値)	404,796 人	
	奥越地区	57,234 人	
	丹南地区	184,783 人	
	嶺南地区	139,927 人	
29年火災状況	火災件数	165 件	
	うち	建物火災件数	103 件
		林野火災件数	2 件
	建物焼損面積	8,535 m ²	
	林野焼損面積	43 a	
	損害額	588,509 千円	
	うち	建物火災	536,985 千円
	死者(自殺者数内数)	6 (0) 人	
	負傷者	39 人	
出火率(人口1万人に対する出火件数) ※人口:平成29年3月31日現在	2.08 件		
29年救急状況	救急出場件数	29,143 件	
	うち	急病	17,692 件
		交通事故	2,601 件
		一般負傷	4,547 件
搬送人員	27,838 人		
消防本部・署所	消防本部	単独設置市	3
		単独設置町	1
		消防一部事務組合	5
	消防署数	19	
	出張所数	28	
	消防職員	消防吏員	1,238 人
その他の職員		28 人	
合計		1,266 人	
消防団	消防団数	18	
	分団数	235	
	消防団員	非常勤団員数	5,825 人
		常勤団員数	—
		合計	5,825 人

消 防 車 両 等	区 分		消防本部・署所	消 防 団	
	普通消防ポンプ自動車			55 台	136 台
水槽付消防ポンプ自動車			23 台	—	
はしご付消防ポンプ自動車			13 台	—	
屈折はしご付消防ポンプ自動車			1 台	—	
大型高所放水車			2 台	—	
泡原液搬送車			2 台	—	
化学消防自動車			17 台	—	
指揮車			20 台	—	
小型動力ポンプ付積載車			—	204 台	
小型動力ポンプ(車両に積載していないもの)			29 台	109 台	
広報車			30 台	—	
資機材搬送車			27 台	—	
屈折放水塔車			0 台	—	
救急自動車			56 台	—	
救助工作車			15 台	—	
その他の車両			22 台	—	
消 防 水 利	消火栓	公 設		18,571 個	
		私 設		98 個	
	防火水槽	100m ³ 以上		131 基	
		60m ³ 以上 100m ³ 未満		133 基	
		40m ³ 以上 60m ³ 未満		4,804 基	
		20m ³ 以上 40m ³ 未満		480 基	
	井戸	公 設		79 個	
		私 設		—	
そ の 他				579 個	
通 信 施 設 等	消防用無線		基地局および固定局		54 局
			移動局		858 局
	防災行政無線	市町	同報無線	同報親局	28 局
				同報受信設備	25,187 局
			移動無線	基地局	22 局
		移動局		878 局	
		県	固定系	地上系	28 局
				衛星系	71 局
	移動系		基地局等	19 局	
			移動局等	222 局	
	テレビ監視装置				2 基
	火災報知専用電話				116 回線
消防電話				125 回線	

第2章 火災の実態

1 概況

平成29年中の火災発生件数は165件、死者6人、負傷者39人、損害額5億8,851万円、焼損棟数181棟、り災世帯数114世帯、り災人員359人となっており、一日当たりの損害状況は第1表のとおりで、概ね毎日161万円が灰じんに帰していることになる。

火災発生件数、損害額および死傷者数の過去10年間の推移は、第1図、第2図のとおりであり、火災発生件数においては、平成20年中が最も多く、平成29年中が最も少ない。

2 出火件数および損害額の状況

(1) 出火件数

総出火件数は165件で、これを火災種別ごとにみると、第3図のように建物火災が103件で全体の62.4%を占め、林野火災2件(1.2%)、車両火災27件(16.4%)、船舶火災1件(0.6%)、その他火災32件(19.4%)となっている。

また、建物火災だけでみると、第4図のように一般住宅が52件(50.5%)で最も多く、次いで工場13件(12.6%)、複合用途(特定)5件(4.9%)、物品販売店舗等4件(3.9%)、共同住宅3件(2.9%)、神社・寺院3件(2.9%)、その他23件(22.3%)となっている。

第3表の月別火災発生状況表を見ると、4月、6月の発生件数が18件で最も多く、7月、9月が10件と最も少ない。

第4表では、市町別の火災発生状況を示している。

(2) 損害額

損害額は5億8,851万円で、これを火災種別ごとにみると、第5図のように建物火災が5億3,699万円で全体の91.2%を占め、次いで車両火災4,419万円(7.5%)となっている。火災1件当たりの損害額は約357万円となる。

第3表の月別火災発生状況表をみると、10月の損害額が1億5,770万円で最も多く、7月が1,407万円で最も少ない。

3 出火原因

全火災の出火原因別状況を表したのが第6図であり、出火原因別損害状況を表したのが第6表である。

第6図をみると、出火原因ではたばこが最も多く17件で10.3%を占め、次いで、電灯電話等の配線10件(6.1%)、排気管8件(4.8%)、電気機器7件(4.2%)、ストーブ、配線器具、火入れ各6件(各3.6%)などとなっている。

4 火災による死者の状況

死者の死因別発生状況を表したのが第7表であり、死者の経過別、年齢別発生状況を表したのが第8表である。

第7表をみると、死因では、一酸化炭素中毒・窒息が3人、火傷が3人となっている。

また、平成29年中の死者に占める高齢者は4人で全体の約67%となった。

第1表 1日当たりの損害状況

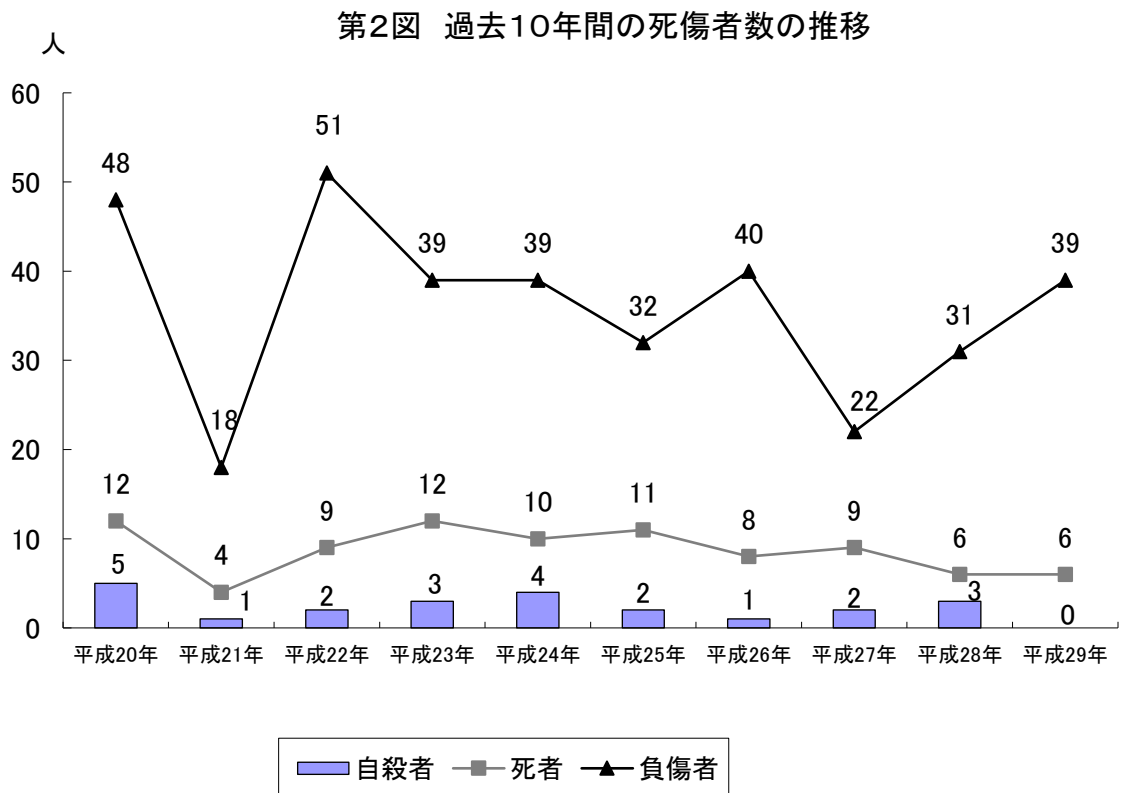
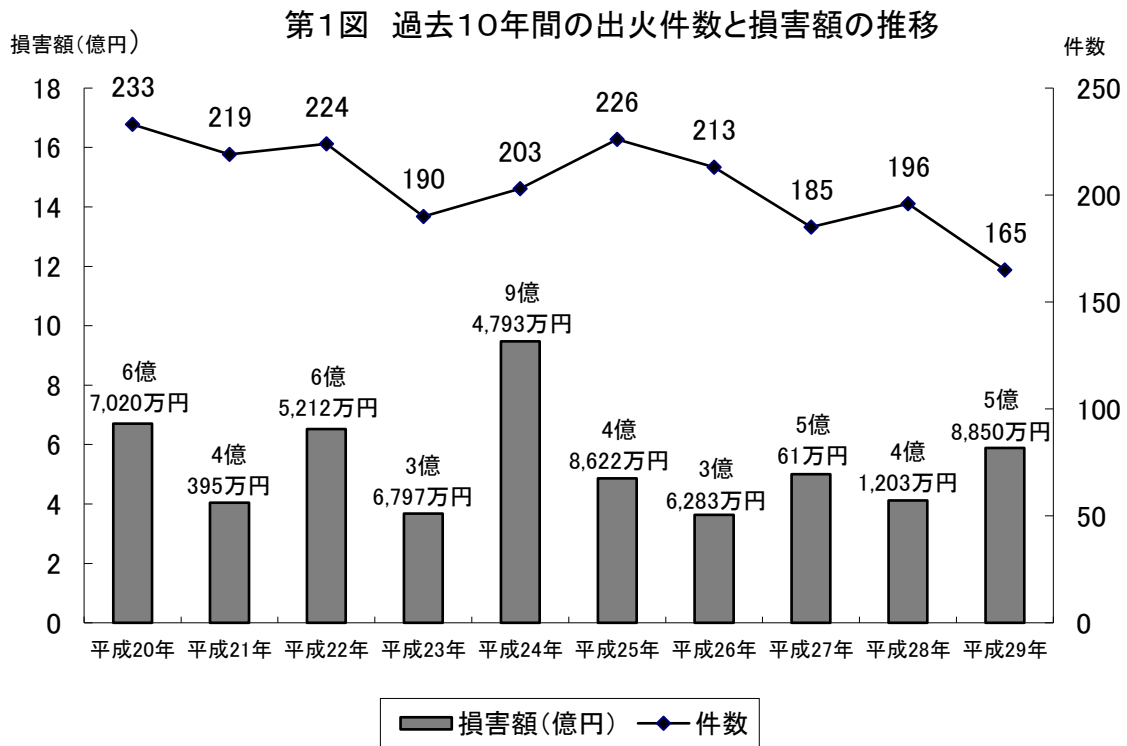
区 分	単位	平成29年 (A)	平成28年 (B)	対前年増加数 (A) - (B)
出 火 件 数	件	0.45	0.54	△0.09
損 害 額	万円	161	113	48
焼 損 棟 数	棟	0.50	0.48	0.02
り 災 世 帯 数	世帯	0.31	0.25	0.06
り 災 人 員	人	0.98	0.70	0.28

第2表 平成29年火災発生状況と前年比較表

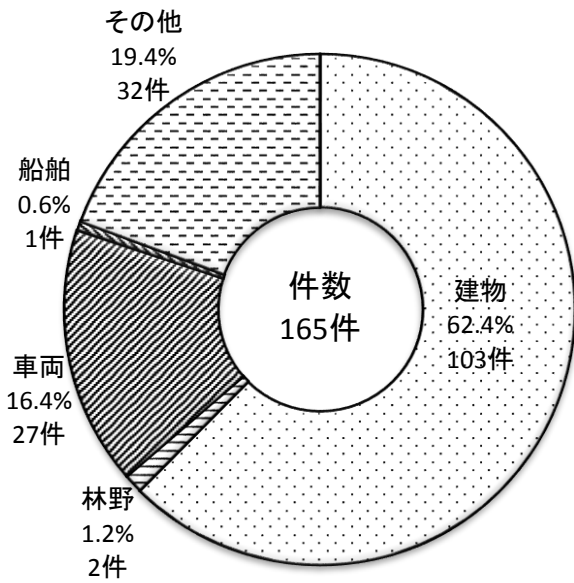
区 分	平成29年(A)	平成28年(B)	対前年増加数 (A) - (B) = (C)
総 出 火 件 数	165	196	△ 31
建 物	103	127	△ 24
林 野	2	1	1
車 両	27	24	3
船 舶	1	0	1
そ の 他	32	44	△ 12
焼 損 棟 数 (棟)	181	176	5
全 焼	50	45	5
半 焼	19	12	7
部 分 焼	58	47	11
ぼ や	54	72	△ 18
り 災 世 帯 数 (世 帯)	114	91	23
全 損	33	23	10
半 損	13	8	5
小 損	68	60	8
り 災 人 員 (人)	359	255	104
建 物 焼 損 面 積 (m ²)	8,535	7,422	1,113
林 野 焼 損 面 積 (a)	43	7	36
損 害 額 合 計 (千 円)	588,509	412,033	176,476
建 物	536,985	404,224	132,761
林 野	47	0	47
車 両	44,187	6,263	37,924
船 舶	168	0	168
そ の 他	3,034	1,546	1,488
爆 発	4,088	0	4,088
死 者 (人)	6	6	0
() は 放 火 自 殺 者 内 数		(3)	(△ 3)
建 物	5	4	1
林 野	0	0	0
車 両	1	0	1
船 舶	0	0	0
そ の 他	0	2	△ 2
		(2)	(△ 2)
負 傷 者 (人)	39	31	8
建 物	27	27	0
林 野	0	0	0
車 両	7	2	5
船 舶	0	0	0
そ の 他	5	2	3
出 火 率 (人口1万人に対する出火件数)	2.08	2.46	

平成29年人口：平成29年3月31日現在の住民基本台帳人口による。

平成28年人口：平成28年3月31日現在の住民基本台帳人口による。

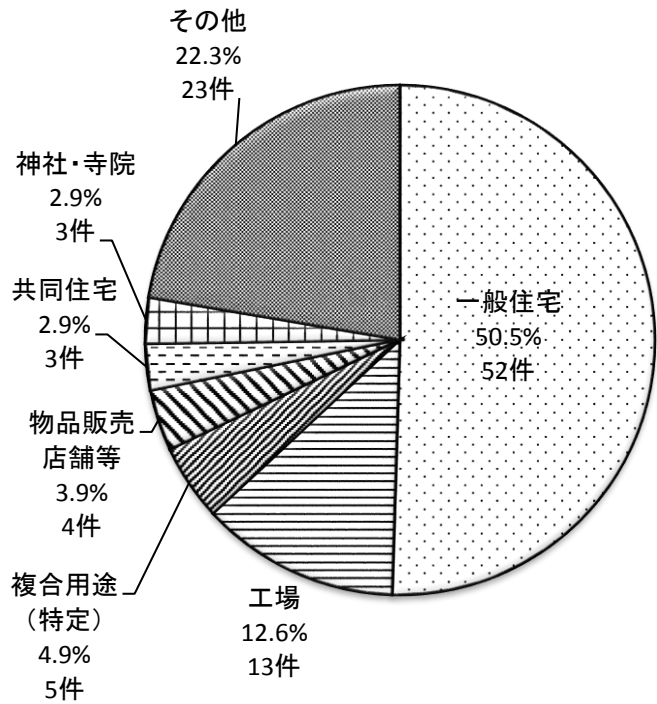


第3図 火災発生件数の内訳



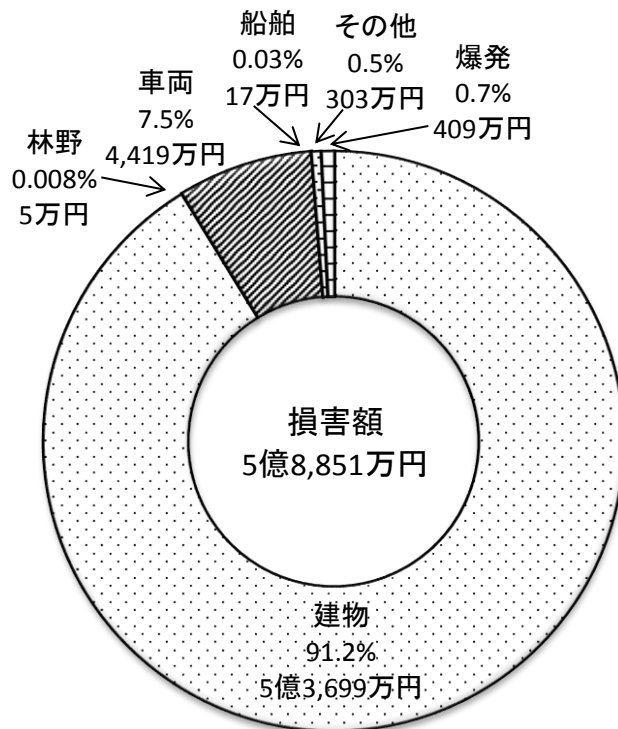
□建物 □林野 ▨車両 ▩船舶 □その他

第4図 うち建物火災件数の内訳



□一般住宅 □工場 ▨複合用途(特定)
 ▩物品販売店舗等 □共同住宅
 ▨神社・寺院
 ▩その他

第5図 損害額の内訳



□建物 □林野 ▨車両 ▩船舶 □その他 ▨爆発

第3表 平成29年月別火災発生状況表

月	出火件数(件)						焼損棟数(棟)				焼損面積			り災世帯数(世帯)			り災人員(人)	死(人)	負傷者(人)	損害額(千円)								
	建物	林野	車両	船舶	その他	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼ	建物(m ²)	林野(a)	合計	全	半	小				合計	建物	林野	車両	船舶	その他	爆		
1	16	11	0	3	0	2	17	3	1	6	7	396	0	12	2	1	9	33	0	0	1	40,871	40,480	0	365	0	26	0
2	11	9	0	1	0	1	24	10	1	8	5	1,828	0	17	8	1	8	34	0	0	5	62,009	61,260	0	120	0	629	0
3	11	9	0	1	0	1	16	4	1	7	4	436	0	12	3	1	8	29	1	0	5	22,315	21,965	0	300	0	50	0
4	18	8	2	2	0	6	11	2	4	2	3	403	43	6	1	2	3	11	1	0	1	47,116	18,716	47	28,303	0	50	0
5	14	8	0	4	0	2	15	4	4	1	6	549	0	8	3	0	5	23	1	0	4	53,605	52,382	0	1,065	0	158	0
6	18	7	0	6	0	5	9	3	1	2	3	755	0	4	0	0	4	13	0	0	7	66,595	63,949	0	1,330	0	1,316	0
7	10	5	0	2	0	3	14	4	1	7	2	541	0	12	3	2	7	25	0	0	0	14,068	12,676	0	1,322	0	70	0
8	12	6	0	1	0	5	9	2	0	2	5	339	0	4	1	0	3	89	0	0	2	34,736	34,590	0	87	0	59	0
9	10	7	0	2	0	1	10	2	1	4	3	263	0	5	0	2	3	16	1	0	1	37,282	37,231	0	51	0	0	0
10	16	10	0	3	0	3	20	7	2	6	5	1,868	0	13	7	2	4	31	1	0	7	157,695	141,858	0	11,074	0	675	4,088
11	14	9	0	2	0	3	12	3	2	3	4	439	0	3	1	1	9	9	1	0	1	19,386	19,215	0	170	0	1	0
12	15	14	0	0	1	0	24	6	1	10	7	718	0	18	4	1	13	46	0	0	5	32,831	32,663	0	0	168	0	0
計	165	103	2	27	1	32	181	50	19	58	54	8,535	43	114	33	13	68	359	6	0	39	588,509	536,985	47	44,187	168	3,034	4,088

第4表 市町別火災状況

区分	出火件数(件)							焼損棟数(棟)					り災世帯数(世帯)			り災人員(人)	
	計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	計	全損	半損		小損
福井市	51	33	1	8	0	0	9	59	13	4	19	23	37	8	4	25	90
敦賀市	16	8	0	5	0	0	3	10	1	3	3	3	7	0	3	4	17
小浜市	6	4	0	1	0	0	1	6	1	0	0	5	4	0	0	4	5
大野市	6	4	0	2	0	0	0	5	1	0	2	2	3	0	1	2	13
勝山市	2	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
鯖江市	11	7	0	4	0	0	0	17	5	4	5	3	11	4	0	7	23
あわら市	11	6	0	0	0	0	5	14	6	0	6	2	9	6	0	3	101
越前市	18	12	1	1	0	0	4	27	9	4	12	2	19	7	3	9	37
坂井市	19	15	0	1	0	0	3	19	5	3	5	6	15	4	2	9	51
市計	140	90	2	22	0	0	26	158	41	18	52	47	105	29	13	63	337
永平寺町	2	2	0	0	0	0	0	5	2	1	2	0	1	1	0	0	2
池田町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南越前町	2	1	0	1	0	0	0	4	2	0	1	1	1	0	0	1	1
越前町	8	5	0	1	1	0	1	6	1	0	2	3	3	1	0	2	9
美浜町	4	2	0	0	0	0	2	5	4	0	0	1	3	2	0	1	8
高浜町	2	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
おおい町	2	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
若狭町	5	1	0	1	0	0	3	1	0	0	0	1	1	0	0	1	2
(内訳)																	
旧三方町 敦賀美方消防管轄	2	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	1	2
旧上中町 若狭消防管轄	3	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
町計	25	13	0	5	1	0	6	23	9	1	6	7	9	4	0	5	22
県計	165	103	2	27	1	0	32	181	50	19	58	54	114	33	13	68	359

若狭町は、旧三方町と旧若狭町では消防の管轄が異なるため、内訳を記載した。

期間:平成29年1月1日～12月31日

死傷者数(人)		焼 損 面 積			損 害 額(千円)						
死 者	負 傷 者	建 物 床 (㎡)	建 物 表 (㎡)	林 野 (a)	合 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	爆 発
1	13	1,454	299	25	102,263	97,749	47	3,090	0	1,377	0
2	4	402	12	0	20,861	17,339	0	3,514	0	8	0
0	1	152	0	0	3,240	3,002	0	230	0	8	0
1	2	128	6	0	1,668	676	0	992	0	0	0
0	1	0	0	0	154	104	0	0	0	50	0
1	3	792	92	0	91,341	89,524	0	1,732	0	85	0
0	4	1,409	70	0	121,970	114,319	0	6,966	0	685	0
0	2	2,062	189	18	65,348	64,644	0	5	0	699	0
1	5	1,205	60	0	117,543	113,383	0	0	0	72	4,088
6	35	7,604	728	43	524,388	500,740	47	16,529	0	2,984	4,088
0	0	382	0	0	5,349	5,349	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	84	5	0	1,391	1,246	0	145	0	0	0
0	2	146	41	0	4,724	4,499	0	57	168	0	0
0	0	316	0	0	25,136	25,136	0	0	0	0	0
0	0	3	0	0	123	15	0	108	0	0	0
0	1	0	0	0	27,336	0	0	27,336	0	0	0
0	1	0	0	0	62	0	0	12	0	50	0
0	1	0	0	0	44	0	0	0	0	44	0
0	0	0	0	0	18	0	0	12	0	6	0
0	4	931	46	0	64,121	36,245	0	27,658	168	50	0
6	39	8,535	774	43	588,509	536,985	47	44,187	168	3,034	4,088

第5表 市町別月別火災発生件数、損害額および出火率

区 分	総計		1月		2月		3月		4月		5月		6月	
	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)
福井市	51	102,263	6	9,779	4	13,214	6	5,009	2	59	4	36	7	28,720
敦賀市	16	20,861	1	8	1	558	0	0	3	10,380	2	290	5	41
小浜市	6	3,240	1	200	0	0	0	0	0	0	1	5	0	0
大野市	6	1,668	0	0	0	0	0	0	3	1,344	1	9	0	0
勝山市	2	154	0	0	1	104	0	0	0	0	0	0	0	0
鯖江市	11	91,341	1	160	0	0	2	11,845	0	0	5	53,193	2	25,343
あわら市	11	121,970	0	0	1	1,191	0	0	2	0	0	0	1	11
越前市	18	65,348	4	1,147	2	45,649	0	0	3	6,860	0	0	0	0
坂井市	19	117,543	2	8,987	0	0	1	2,248	1	1,087	1	72	3	12,480
市 計	140	524,388	15	20,281	9	60,716	9	19,102	14	19,730	14	53,605	18	66,595
永平寺町	2	5,349	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
池田町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南越前町	2	1,391	0	0	1	1,246	0	0	0	0	0	0	0	0
越前町	8	4,724	0	0	1	47	2	3,213	1	0	0	0	0	0
美浜町	4	25,136	1	20,590	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高浜町	2	123	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
おおい町	2	27,336	0	0	0	0	0	0	1	27,336	0	0	0	0
若狭町 (内訳)	5	62	0	0	0	0	0	0	2	50	0	0	0	0
旧三方町 <small>敦賀美方消防管轄</small>	2	44	0	0	0	0	0	0	1	44	0	0	0	0
旧上中町 <small>若狭消防管轄</small>	3	18	0	0	0	0	0	0	1	6	0	0	0	0
町 計	25	64,121	1	20,590	2	1,293	2	3,213	4	27,386	0	0	0	0
県 計	165	588,509	16	40,871	11	62,009	11	22,315	18	47,116	14	53,605	18	66,595

若狭町は、旧三方町と旧若狭町では消防の管轄が異なるため、内訳を記載した。

出火率(人口1万人に対する出火件数)は、平成29年3月31日現在の住民基本台帳人口により算定

期間:平成29年1月1日～12月31日

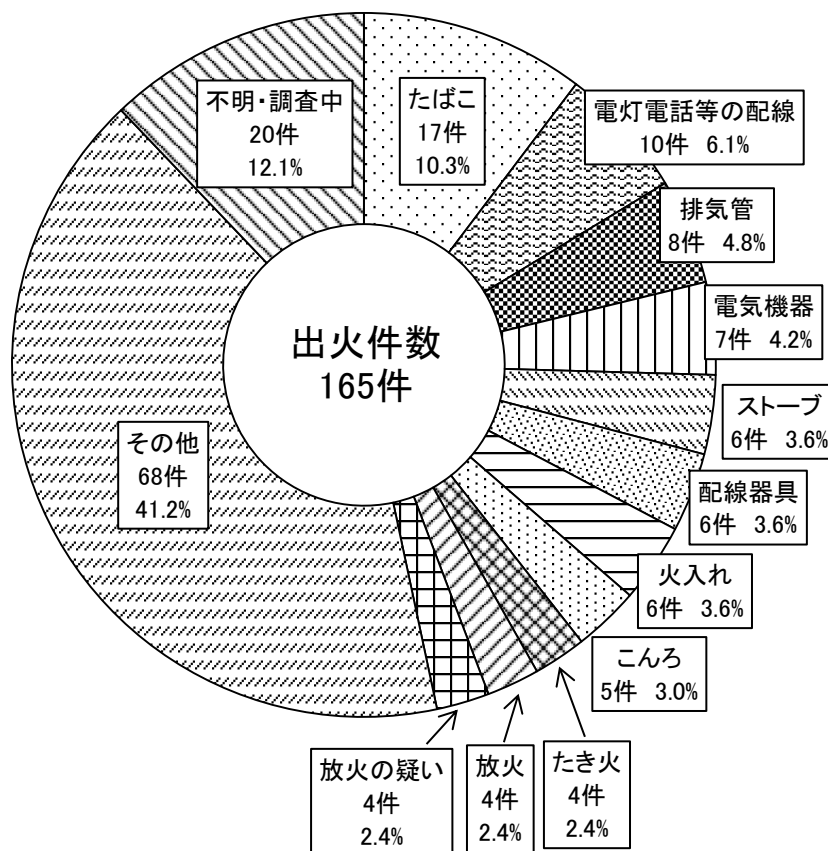
7月		8月		9月		10月		11月		12月		出火率 (人口 1万人に 対する 出火件数)
件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	
3	2,457	1	1	3	30,689	1	1	6	223	8	12,075	1.93
1	2	0	0	1	39	2	9,543	0	0	0	0	2.41
0	0	2	3,025	0	0	2	10	0	0	0	0	2.01
1	290	0	0	0	0	0	0	1	25	0	0	1.75
0	0	1	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0.83
0	0	0	0	0	0	1	800	0	0	0	0	1.59
1	0	2	309	0	0	2	120,448	1	8	1	3	3.84
3	11,319	0	0	1	7	1	55	3	190	1	121	2.17
0	0	3	31,279	2	6,535	4	26,603	1	13,493	1	14,759	2.05
9	14,068	9	34,664	7	37,270	13	157,460	12	13,939	11	26,958	2.02
0	0	0	0	0	0	1	47	1	5,302	0	0	1.06
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
0	0	0	0	0	0	0	0	1	145	0	0	1.83
0	0	1	57	0	0	1	80	0	0	2	1,327	3.59
0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	4,546	4.09
0	0	1	15	0	0	1	108	0	0	0	0	1.89
0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2.41
1	0	0	0	1	12	0	0	0	0	1	0	3.26
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
1	0	0	0	1	12	0	0	0	0	0	0	
1	0	3	72	3	12	3	235	2	5,447	4	5,873	2.53
10	14,068	12	34,736	10	37,282	16	157,695	14	19,386	15	32,831	2.08

第6表 全火災の出火原因別損害状況表

期間:平成29年1月1日～12月31日

出火原因	出火件数(件)	焼損床面積(m ²)	焼損棟数(棟)	り災世帯数(世帯)	損害額(千円)
たばこ	17	620	21	17	23,004
電灯電話等の配線	10	1,541	20	18	61,261
排気管	8	0	0	0	2,183
電気機器	7	223	6	2	75,810
ストーブ	6	185	9	9	11,940
配線器具	6	233	5	0	51,470
火入れ	6	0	0	0	119
こんろ	5	29	6	2	1,154
たき火	4	13	3	0	202
放火	4	220	12	9	12,974
放火の疑い	4	153	6	3	3,096
その他	68	2,332	59	30	106,952
不明・調査中	20	2,986	34	24	238,344
合計	165	8,535	181	114	588,509

第6図 全火災の出火原因別状況



第7表 死者の死因別発生状況表

死因 火災種別	一酸化炭素 中毒・窒息	火傷	打撲・骨折 等	自殺	その他	不明	合計(人)
建 物 火 災	3	2	0	0	0	0	5
林 野 火 災	0	0	0	0	0	0	0
車 両 火 災	0	1	0	0	0	0	1
そ の 他 火 災	0	0	0	0	0	0	0
合 計 (人)	3	3	0	0	0	0	6

第8表 死者の経過別・年齢別発生状況表

経過別 年齢別(歳)	0 ～ 5	6 ～ 10	11 ～ 20	21 ～ 30	31 ～ 40	41 ～ 50	51 ～ 60	61 ～ 64	65 ～ 70	71 ～ 80	81～	不明	合計 (人)
病気・身体不自由によ り発見遅れる							1						1
避難行動を起こしたが 逃げ切れず										1	1		2
その他										1			1
不明・調査中						1						1	2
合計(人)	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	2	0	6

第3章 救急業務の実態

1 救急体制

災害により生じた事故もしくは屋外および公衆の出入りする場所、または屋内において生じた事故で、迅速に搬送する手段がない場合に傷病者を医療機関等へ搬送する業務が救急業務であるが、平成30年4月1日現在、第1表のとおり、救急自動車56台（うち高規格救急自動車56台）、救急隊員566名（うち救急救命士231名）で救急業務にあたっている。

2 救急医療体制

救急隊が搬送する傷病者を受け入れる救急告示医療機関数は、平成30年4月1日現在、第2表のとおり53施設である。

3 救急活動状況

救急活動状況を表したのが第3表であり、救急出場件数は29,143件、搬送人員は27,838人となっている。県内1日あたりの出場件数は約80件となり、約18分に1回の割合で救急隊が出場したことになる。

過去10年間の出場件数および搬送人員の推移を表したのが第1図であり、出場件数、搬送人員ともにほぼ毎年増加している。

出場件数、搬送人員の事故種別内訳を表したのが第2図、第3図であり、出場件数の事故種別内訳では、急病が17,692件で、全体の60.7%を占め、次いで一般負傷4,547件(15.6%)、交通事故2,601件(8.9%)などとなっている。搬送人員では急病が16,651人で全体の59.8%を占め、次いで一般負傷4,361人(15.7%)、交通事故2,895人(10.4%)などとなっている。

第1表 救急体制状況表

平成30年4月1日現在

救急体制 消防(局)本部名	救急自動車			救急隊員					
	高規格 救急車	通常型	合計	専任		兼任		合計	
				救急救命士		救急救命士		救急救命士	
福井市	11	0	11	54	43	26	9	80	52
大野市	4	0	4			44	16	44	16
勝山市	3	0	3			27	9	27	9
永平寺町	3	0	3			34	8	34	8
嶺北消防組合	8	0	8			94	34	94	34
鯖江・丹生消防組合	6	0	6			106	37	106	37
南越消防組合	8	0	8			76	26	76	26
敦賀美方消防組合	6	0	6	22	17	15	8	37	25
若狭消防組合	7	0	7	7	5	61	19	68	24
合計	56	0	56	83	65	483	166	566	231

第2表 医療機関状況表

平成30年4月1日現在

告示別	種別	国・公立	公的	私的		合計
				病院	診療所	
救急告示医療機関		7	5	27	14	53
その他の医療機関		14	7	28	441	490
合計		21	12	55	455	543

第3表 救急活動状況

(平成29年中)

	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自行損傷	急病	その他
救急出場件数	29,143	109	7	73	2,601	266	245	4,547	75	196	17,692	3,332
搬送人員	27,838	29	3	46	2,895	260	251	4,361	63	123	16,651	3,156

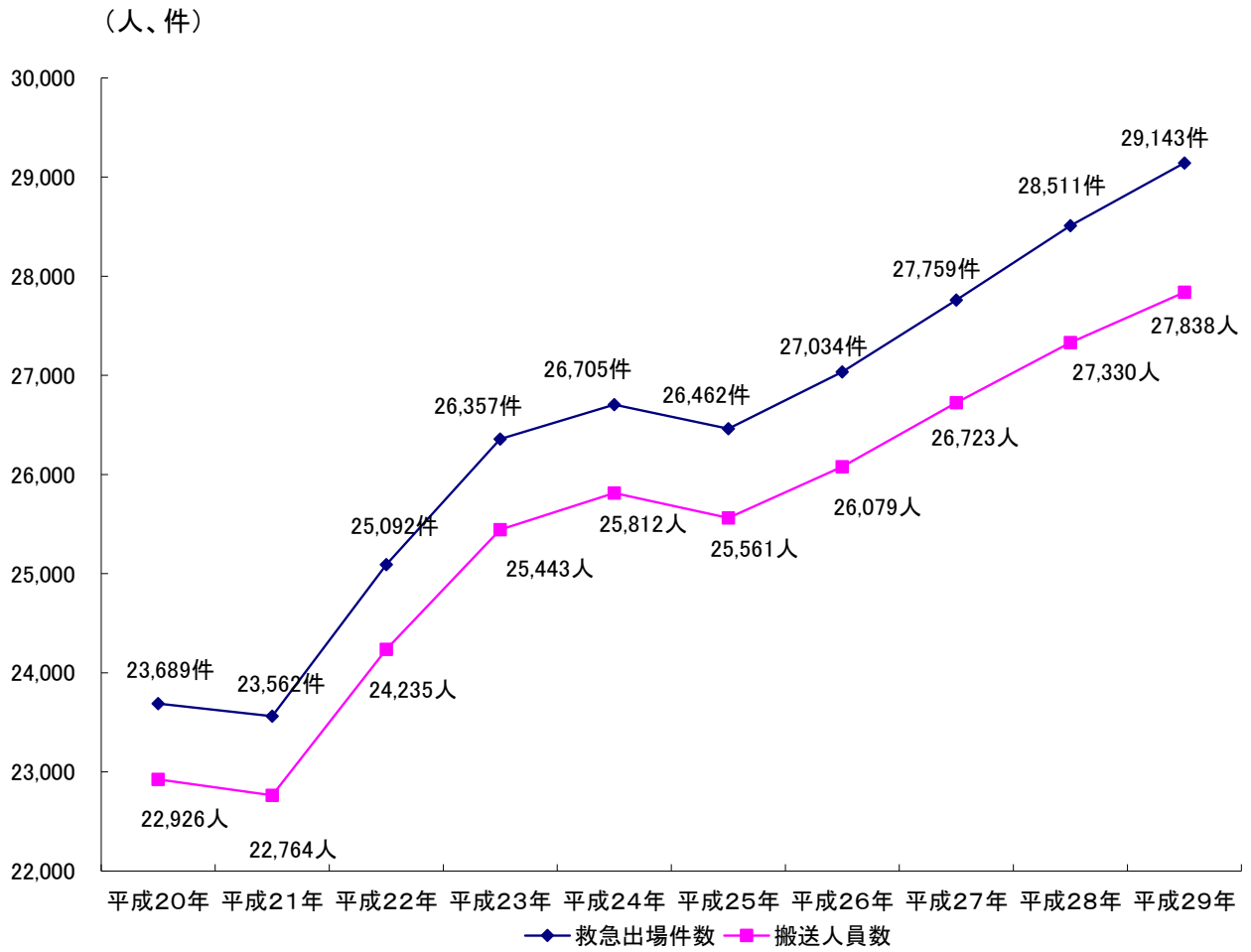
第4表 高速自動車道における救急活動状況表

(平成29年中)

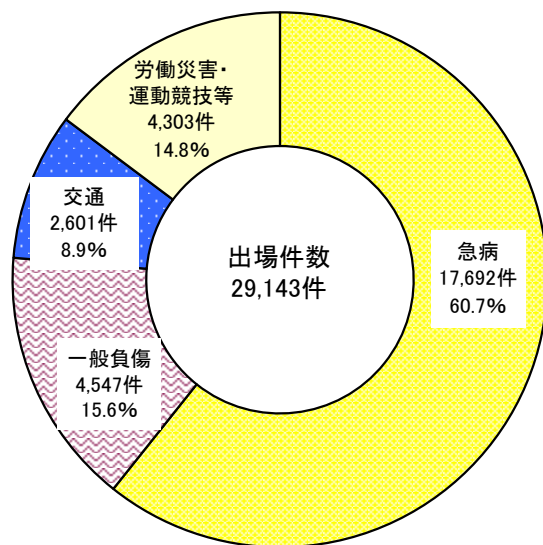
高速道路名	北陸自動車道									小計
担当消防本部名	嶺北消防組合 消防本部		福井市 消防局		鯖江・丹生消防 組合消防本部		南越消防組合 消防本部		敦賀美方消防 組合消防本部	
I C 名	金津	丸岡	福井北	福井	鯖江	武生	今庄	敦賀		
救急出動件数	3	3	3	5	14	7	25	34		94
搬送人員	8	3	6	7	15	6	31	32		108

高速道路名	舞鶴若狭自動車道								小計	計
担当消防本部名	敦賀美方消防組合 消防本部			若狭消防組合 消防本部						
I C 名	若狭美浜	若狭三方	敦賀南	大飯高浜	小浜西	小浜	若狭上中			
救急出動件数	0	1	1	1	0	11	4	18	112	
搬送人員	0	1	1	2	0	5	4	13	121	

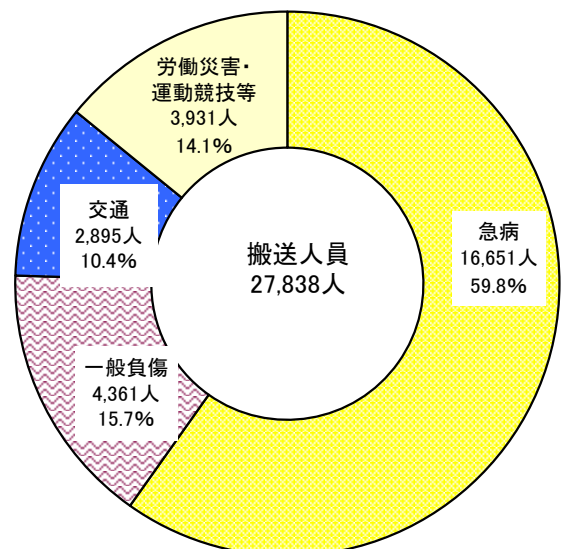
第1図 過去10年間の救急活動の推移



第2図 出場件数の事故種別内訳



第3図 搬送人員の事故種別内訳



第4章 予 防 行 政 の 概 況

1 防火対象物定期点検報告制度

不特定多数の人が出入りするなど一定の防火対象物について、所有者や賃借人等のうち管理について権原を有する人が、火災予防のために資格者による定期点検を行い、その結果を消防機関へ報告する制度である。

この制度による平成29年4月1日から平成30年3月31日までの状況は第1表のとおりである。

第1表 防火対象物定期点検報告制度実施状況表

防火対象物の区分			点検を要する 防火対象物数		点検報告済 防火対象物数		特例認定済 防火対象物数	
			第1号該当	第2号該当	第1号該当	第2号該当	第1号該当	第2号該当
1	イ	劇場、映画館、演芸場または観覧場	37		11		8	
	ロ	公会堂または集会場	224		98		65	
2	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブその他これらに類するもの						
	ロ	遊技場またはダンスホール	61		30		4	
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等						
	ニ	カラオケボックス等	3		2			
3	イ	待合、料理店その他これらに類するもの	3	10	3	2		
	ロ	飲食店	8	43	5	13		
4		百貨店、マーケットその他の物品販売業を営む店舗または展示場	192	20	103	3	15	1
5	イ	旅館、ホテル、宿泊所その他これらに類するもの	39	84	21	22	10	34
6	イ	病院、診療所または助産所	35	6	19	3	12	2
	ロ	老人短期入所施設、養護老人ホーム、精神障害者社会復帰施設等	5	3		2	3	
	ハ	老人デイサービスセンター、老人福祉センター、精神障害者社会復帰施設（軽微）等	2	3		3	1	
	ニ	幼稚園または特別支援学校	1		1			
9	イ	公衆浴場のうち、蒸気浴場、熱気浴場その他これらに類する公衆浴場	3				1	
16	イ	複合用途防火対象物のうち、その一部が上記に該当する用途に供されているもの	197	46	89	14	40	3
16の2		地下街						
合 計			810	215	382	62	159	40

【備考】

- ・点検報告済防火対象物とは、1年に1回、防火対象物点検資格者による点検報告が必要なもので、点検の結果、点検基準に適合していると認められた防火対象物。「防火基準点検済証」を表示することができる。
- ・特例認定済防火対象物とは、一定の要件を満たしているもので、申請によって点検報告の義務が3年間免除される防火対象物。「防火優良認定証」を表示することができる。
- ・第1号該当とは、収容人員が300人以上の防火対象物
- ・第2号該当とは、収容人員が30人以上300人未満の防火対象物で次の要件に該当する防火対象物
 - 特定用途部分が地階または3階以上に存するもの（避難階は除く）
 - 階段が2以上設けられていないもの
- ・調査基準日…平成30年3月31日
- ・調査期間……平成29年4月1日～平成30年3月31日

2 消防設備士試験・講習の状況

消防設備士は、甲種・乙種合わせて663人の受験者に対して274人が合格し、合格率は41.3%であった。その状況は第2表のとおりである。

また、免状所有者に対する義務講習は635人が受講した。その状況は第3表のとおりである。

第2表 消防設備士試験実施状況表

試験日：平成29年8月20日（日）

平成30年2月25日（日）

区 分	平成29年度								免状交付延べ数	
	受験者数（人）		合格人数（人）		合格率（%）		免状交付数			
	甲種	乙種	甲種	乙種	甲種	乙種	甲種	乙種	甲種	乙種
特 類	4		0		0.0%		0		18	
第 1 類	71	30	13	10	18.3%	33.3%	12	11	1,233	332
第 2 類	25	11	11	1	44.0%	9.1%	10	2	354	98
第 3 類	31	3	12	0	38.7%	0.0%	12	0	271	63
第 4 類	156	63	43	29	27.6%	46.0%	42	25	2,773	1,106
第 5 類	25	6	8	6	32.0%	100.0%	7	4	307	118
第 6 類		119		57		47.9%		51		2,139
第 7 類		119		84		70.6%		105		3,227
計	312	351	87	187	27.9%	53.3%	83	198	4,956	7,083

第3表 消防設備士法定講習実施状況表

区 分	受 講 対 象 者 区 分	受講者数（人）	実 施 年 月 日
消 火 設 備	(甲・乙)第1類, 第2類, 第3類 消防設備士	119	平成29年8月29日（火）
避難設備・消火器	(甲・乙)第5類, (乙)第6類 消防設備士	169	平成29年8月30日（水）
警 報 設 備	(甲・乙)第4類, (乙)第7類 消防設備士	347	平成29年8月31日（木） 平成29年9月1日（金）
合 計		635	

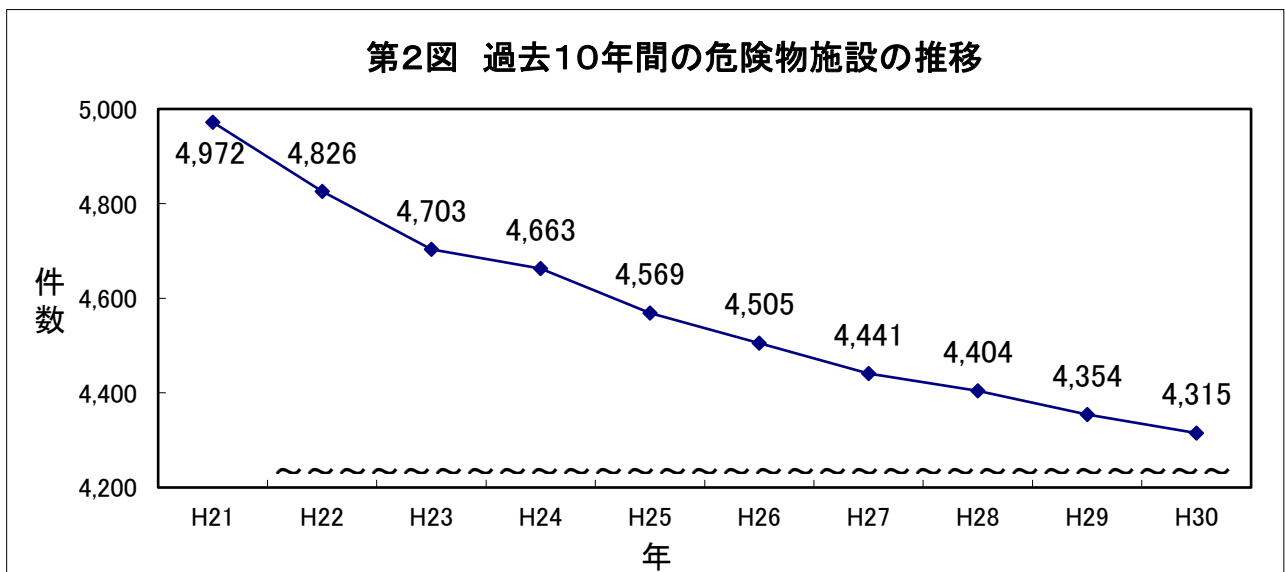
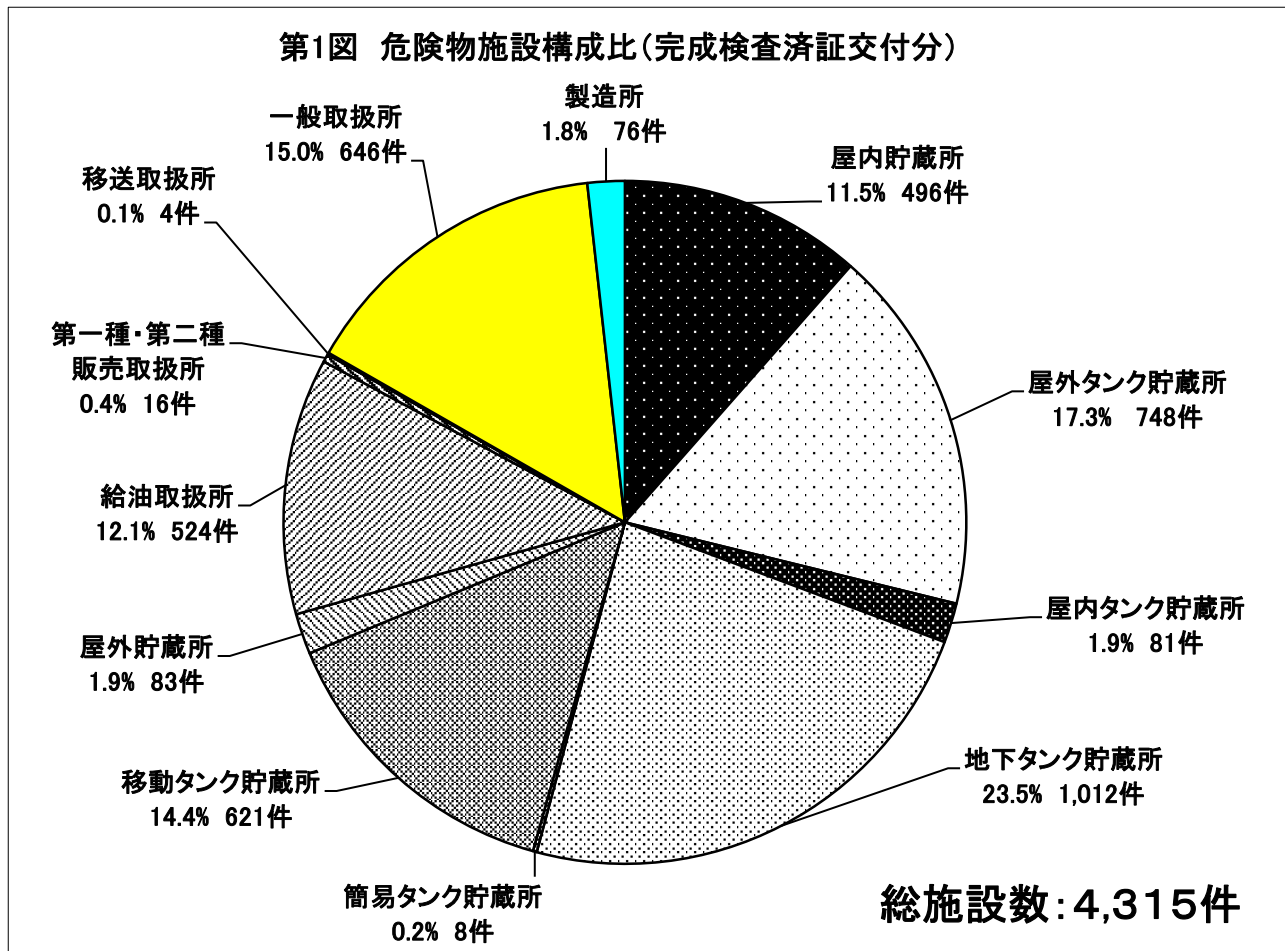
第5章 危険物規制

1 概況

(1) 危険物規制は、福井市、大野市、勝山市および永平寺町においては当該市町が、またその他の市町においてはそれぞれの加入する消防組合が行なっている。

なお、県内の総施設数は第1図のとおりである。(平成30年3月31日現在)

(2) 危険物の総施設数の推移は第2図のとおり減少傾向であり、前年に対し39件減少している。



第1表 施設別危険物施設数

平成30年3月31日現在

危険物施設の別 消防(局)本部名	製 造 所 (A)	貯 蔵 所										取 扱 所					合 計 (A + B + C)	事 業 所	
		屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タンク 貯 蔵 所	準 特 定 屋 外 タンク 貯 蔵 所	特 定 屋 外 タンク 貯 蔵 所	屋 内 タンク 貯 蔵 所	地 下 タンク 貯 蔵 所	簡 易 タンク 貯 蔵 所	移 動 タンク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	小 計 (B)	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売 取 扱 所	第 二 種 販 売 取 扱 所	移 送 取 扱 所	一 般 取 扱 所			小 計 (C)
福 井 市	21	111	188	5	20	27	271	1	178	18	794	134	8	0	1	140	283	1,098	540
大 野 市	0	8	15	0	0	0	54	0	32	0	109	24	0	0	0	26	50	159	93
勝 山 市	2	7	30	0	0	1	47	0	19	3	107	17	0	0	0	20	37	146	82
永 平 寺 町	0	5	5	0	0	2	21	0	13	0	46	7	0	0	0	11	18	64	39
嶺北消防組合	30	100	176	3	36	11	179	1	118	22	607	91	0	0	2	173	266	903	328
鯖江・丹生消防組合	5	62	70	0	0	6	117	0	41	10	306	46	3	4	0	53	106	417	283
南越消防組合	14	75	112	0	0	11	120	2	79	16	415	65	0	0	0	74	139	568	256
敦賀美方消防組合	1	63	104	7	8	13	126	0	83	11	400	89	0	0	1	93	183	584	223
若狭消防組合	3	65	48	0	0	10	77	4	58	3	265	51	1	0	0	56	108	376	155
合 計	76	496	748	15	64	81	1,012	8	621	83	3,049	524	12	4	4	646	1,190	4,315	1,999

- 注：1 貯蔵所および取扱所の区分は危険物の規制に関する政令の区分による（以下の表においても同様）。
- 2 本表には、設置を許可した施設のうち、完成検査済証を交付した施設数から廃止届を受理した施設数を除いた数を記載（以下の表においても同様）。
- 3 準特定屋外タンク貯蔵所には、屋外タンク貯蔵所のうち、貯蔵し、または取り扱う液体の危険物の最大数量が五百キロリットル以上千キロリットル未満のものを記載（以下の表においても同様）。
- 4 特定屋外タンク貯蔵所数は、屋外タンク貯蔵所のうち、貯蔵し、または取り扱う液体の危険物の最大数量が千キロリットル以上のものを記載（以下の表においても同様）。
- 5 事業所数は、危険物施設を有する事業所の数を記載。

第2表 指定数量別・類別危険物施設数

平成30年3月31日現在

危険物施設の別 数量別・類別	製 造 所 (A)	貯 蔵 所									取 扱 所						合 計 (A + B + C)		
		屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	準 特 定 屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	特 定 屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	小 計 (B)	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売 取 扱 所	第 二 種 販 売 取 扱 所	移 送 取 扱 所	一 般 取 扱 所		小 計 (C)	
5倍以下	3	224	130			57	553	8	467	22	1,461	39	6			287	332	1,796	
5倍を超えて10倍以下	7	114	109			19	238		13	30	523	55	3			148	206	736	
10 " 50 "	36	88	256			5	166		31	27	573	133	3	4		127	267	876	
50 " 100 "	14	21	81				32		91	3	228	73				36	109	351	
100 " 150 "	3	26	46				14		18		104	54				17	71	178	
150 " 200 "		9	8	1			3			1	21	63				9	72	93	
200 " 1,000 "	13	11	52	9	3		6		1		70	107				15	122	205	
1,000 " 5,000 "		3	24	5	19						27					3	3	30	
5,000 " 10,000 "			3		3						3					2	2	5	
10,000倍を超えるもの			39		39						39				4	2	6	45	
合 計	76	496	748	15	64	81	1,012	8	621	83	3,049	524	12	4	4	646	1,190	4,315	
単 独	第 1 類	1	10								10							11	
	第 2 類	1	4								4					3	3	8	
	第 3 類		3								3					5	5	8	
	第 4 類	53	434	744	15	64	81	1,012	8	621	82	2,982	524	12	4	4	616	1,160	4,195
	第 5 類		18	2							20							20	
	第 6 類			2							2						9	9	11
混 在	21	27								1	28					13	13	62	
合 計	76	496	748	15	64	81	1,012	8	621	83	3,049	524	12	4	4	646	1,190	4,315	

注：1 数量別の欄は、危険物施設で貯蔵または取り扱う危険物の最大数量（許可数量）を指定数量の倍数によって表したものである。
 2 類別の欄の単独には、類を同じくする危険物のみを貯蔵または取り扱っている危険物施設の数、混在には、類を異にする危険物を貯蔵または取り扱っている危険物施設の数に記載。

第3表 危険物施設に対する立入検査状況

平成29年 4月 1日から
平成30年 3月31日まで

危険物施設の別 消防(局)本部名		製 造 所 (A)	貯 蔵 所								取 扱 所					合 計 (A + B + C)	
			屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	小 計 (B)	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売 取 扱 所	第 二 種 販 売 取 扱 所	移 送 取 扱 所	一 般 取 扱 所		小 計 (C)
福 井 市	検査施設数	21	111	188	27	271	1	178	18	794	134	8		1	140	283	1,098
	延回数	34	111	191	27	271	1	184	20	805	135	9		1	150	295	1,134
大 野 市	検査施設数		8	5		1		29		43					4	4	47
	延回数		8	5		1		29		43					4	4	47
勝 山 市	検査施設数		4	13	1	22		19	1	60	17				8	25	85
	延回数		4	13	1	22		19	1	60	17				8	25	85
永 平 寺 町	検査施設数		5	5	2	20		13		45	7				11	18	63
	延回数		5	5	2	20		13		45	7				11	18	63
嶺北消防組合	検査施設数	24	57	114	5	113	1	131	17	438	82			2	115	199	661
	延回数	24	57	114	5	114	1	132	17	440	82			2	115	199	663
鯖江・丹生消防組合	検査施設数	5	11	41		26		44	5	127	3				20	23	155
	延回数	5	11	41		26		44	5	127	3				20	23	155
南越消防組合	検査施設数			1		3		71		75	8				1	9	84
	延回数			1		4		71		76	9				1	10	86
敦賀美方消防組合	検査施設数	1	20	45		51		80	1	197	42			1	33	76	274
	延回数	1	20	45		51		80	1	197	42			1	33	76	274
若狭消防組合	検査施設数	1	21	18	3	59		37	3	141	33				25	58	200
	延回数	1	23	18	3	62		37	3	146	33				25	58	205
合 計	検査施設数	52	237	430	38	566	2	602	45	1,920	326	8		4	357	695	2,667
	延回数	65	239	433	38	571	2	609	47	1,939	328	9		4	367	708	2,712

注：1 検査施設数の欄は、立入検査を行った施設数を危険物施設の区分ごとに記載。
2 延回数の欄は、立入検査を行った延回数を危険物施設の区分ごとに記載。

第4表の1 容量別屋外タンク貯蔵所数

平成30年3月31日現在

消防(局)本部名 容量別	福	大	勝	永	嶺	鯖	南	敦	若	合
	井	野	山	平	北	江	越	賀	狭	計
	市	市	市	町	消	・	消	美	消	
					防	丹	防	方	防	
					組	生	組	消	組	
					合	消	合	防	合	
						防		組		
						組		合		
						合				
100kl未満	146	15	29	5	120	51	102	64	42	574
100kl～500kl未満	17	0	1	0	17	19	10	25	6	95
500kl～1,000kl未満	5	0	0	0	3	0	0	7	0	15
1,000kl～5,000kl未満	0	0	0	0	21	0	0	8	0	29
5,000kl～10,000kl未満	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
10,000kl～50,000kl未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50,000kl～100,000kl未満	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
100,000kl以上	20	0	0	0	10	0	0	0	0	30
合計	188	15	30	5	176	70	112	104	48	748

第4表の2 品名別屋外タンク貯蔵所数

平成30年3月31日現在

品名別 容量別	第4類										第4類以外の類(B)	合計(A+B)
	原	ナ	ガ	灯	軽	重	第	ア	そ	小		
	油	フ	ソ	油	油	油	4	ル	の	計		
		サ	リ				石	コ	他	(
			ン				油	ール)		
							類	類				
100kl未満	0	0	0	76	31	177	19	51	216	570	4	574
100kl～500kl未満	0	0	0	3	16	44	8	0	24	95		95
500kl～1,000kl未満	3	0	1	0	1	7	0	0	3	15		15
1,000kl～5,000kl未満	0	0	6	3	4	9	0	0	7	29		29
5,000kl～10,000kl未満	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2		2
10,000kl～50,000kl未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
50,000kl～100,000kl未満	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3		3
100,000kl以上	30	0	0	0	0	0	0	0	0	30		30
合計	33	0	7	84	52	240	27	51	250	744	4	748

第5表 危険物取扱者試験実施状況

区 分 種 別		平成26年度 合 格 率 (%)	平成27年度 合 格 率 (%)	平成28年度 合 格 率 (%)	平成29年度		
					受 験 者 数 (人)	合 格 者 数 (人)	合 格 率 (%)
甲 種		35.2	18.4	32.1	165	51	30.9
乙 種	第 1 類	68.1	62.6	65.9	255	154	60.4
	第 2 類	73.2	63.0	76.0	216	160	74.1
	第 3 類	65.0	69.0	68.1	240	153	63.8
	第 4 類	27.2	29.2	27.0	2,682	920	34.3
	第 5 類	70.7	59.6	68.1	244	162	66.4
	第 6 類	67.0	59.6	66.5	289	169	58.5
	小 計	42.3	38.7	39.2	3,926	1,718	43.8
丙 種		60.1	64.9	57.5	625	367	58.7
合 計		44.0	41.1	41.0	4,716	2,136	45.3

第6表 危険物取扱者保安講習実施状況

区 分 講習種別		平成26年度 受 講 者 数 (人)	平成27年度 受 講 者 数 (人)	平成28年度 受 講 者 数 (人)	平成29年度	
					受 講 者 数 (人)	講 習 実 施 回 数 (回)
給 油 取 扱 所		393	481	456	410	8
石 油 コ ン ビ ナ ー ト		42	41	50	56	1
そ の 他		1,211	1,520	1,471	1,456	11
合 計		1,646	2,042	1,977	1,922	20

- 注：1 「給油取扱所」は、給油取扱所において危険物の取扱作業に従事している危険物取扱者を対象とした講習種別である。
- 2 「石油コンビナート」は、石油コンビナート等災害防止法上の特定事業所における危険物施設において危険物の取扱作業に従事する危険物取扱者を対象とした講習種別である。
- 3 「その他」は、「給油取扱所」および「石油コンビナート」以外の危険物施設において危険物の取扱作業に従事する危険物取扱者を対象とした講習種別である。

2. 危険物施設の火災・漏えい事故等

- (1) 過去5年間における危険物の災害事故発生件数は、平成28年が9件と最も多い。
 (2) 過去5年間の危険物施設別の災害事故発生件数は、一般取扱所での事故が11件と最も多い。

第7表 過去5年間の危険物施設における災害事故発生件数

年	危険物施設の別 内訳	製 造 所 (A)	貯蔵所							取扱所					そ の 他 (D)	合 計 (A+B+C+D)	
			屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タン ク 貯 蔵 所	屋 内 タン ク 貯 蔵 所	地 下 タン ク 貯 蔵 所	簡 易 タン ク 貯 蔵 所	移 動 タン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	小 計 (B)	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売 取 扱 所	第 二 種 販 売 取 扱 所	移 送 取 扱 所			一 般 取 扱 所
平成25年	火災								0					1	1		1
	漏えい				2			1	3						0		3
	その他							1	1						0		1
平成26年	火災								0					1	1		1
	漏えい			2					2					1	1		3
	その他							2	2						0		2
平成27年	火災	1							0						0		1
	漏えい							2	2	1				1	2		4
	その他			1					1						0		1
平成28年	火災								0					4	4		4
	漏えい							1	1					1	1		2
	その他							2	2					1	1		3
平成29年	火災	1							0						0		1
	漏えい				1				1						0		1
	その他								0					1	1		1
火災計		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	0	8
漏えい計		0	0	2	0	3	0	4	9	1	0	0	0	3	4	0	13
その他計		0	0	1	0	0	0	5	6	0	0	0	0	2	2	0	8
総計		2	0	3	0	3	0	9	15	1	0	0	0	11	12	0	29

注：1 危険物施設の別の「その他」には、危険物運搬中の事故または無許可の危険物施設など、許可を受けている危険物施設以外での事故件数を記載。

第6章 消防の概要

1 消防の組織〈消防機関と人員〉

昭和23年消防組織法施行後、市町村消防の原則が確立され、昭和48年7月1日大野地区消防組合が発足したことにより、県下全域にわたり消防の常備化が実現した。消防吏員は平成30年4月1日現在で1,238名である。

また、消防団員数は平成30年4月1日現在で5,825名であるが、近年の社会経済情勢の変化の影響を受けて、団員数の減少、サラリーマン団員の増加等の課題に直面しており、消防団の充実強化を一層推進することが必要である。

2 消防施設

(1) 消防機械

消防機械の保有状況は第8表および第9表のとおりであるが、特に近年の救急需要の増加に伴い、各消防本部とも高規格救急自動車の導入を推進している。これにより、高度な救急処置を実施することができ、救命率の向上を図っている。

(2) 消防水利

消防水利は、消防機械とともに、火災鎮火のために重要不可欠なものである。

これについては、消防に必要な水利の確保と管理のため「消防水利の基準」が定められ、その基準に適合したものを消防水利としている。消防水利には、消火栓、防火水槽、プール等の人工水利と河川等の自然水利があり、その保有状況は第11表のとおりである。

3 民間防火組織

(1) 幼年消防クラブ

幼年消防クラブは、幼年期における防火教育の重要性、防火活動を通じての正しい社会的態度の養成の必要性などの観点からはじめられたもので、幼稚園、保育園の指導者を中心に消防機関の協力を得て幼年消防活動を行うことにより、父母兄弟や近隣住民に対する防火思想の普及も効果的に図られている。

(2) 少年消防クラブ

少年消防クラブは、少年のころから火災予防に関する知識を身に付け、学校や各家庭における火災防止を図るとともに、火に関する諸原理を実際に即して勉強し、学校教育としての社会科、理科および家庭科の学習の補助を目的とするものであって、昭和25年に少年消防クラブ取扱要綱が制定され、続いて昭和28年に「全国少年消防クラブ運営指導協議会」（会長：消防庁長官）が設けられ、今日に至っている。

(3) 女性防火クラブ

女性防火クラブは、家庭において火を使用する機会の多い女性を対象に、火災予防の知識を養うことが必要であることから、任意に結成されたものであり、消防職団員の指導のもとに各家庭の防火診断、火災の初期活動等、重要な役割を果たしている。

4 表 彰

消防職員または消防団員の士気高揚を図るとともに、地域住民の消防に対する正しい認識と円滑な協力援助関係を確立するため、消防に関して功労のあった消防団員、消防機関その他の団体または個人に対し、各種表彰を行っている。

また、昭和58年より新たに県知事の定例表彰の中で、30年以上勤続の消防団員の配偶者等も表彰することにした。

5 消防の現況

第1表 消防職団員数の推移(各年4月1日現在)

区分	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
消防職員数	150	163	203	201	231	227	262	257	268	293	328	351	354	372	381	421	461	521	594
消防団員数	11,835	10,701	8,487	8,275	8,091	7,342	7,174	7,147	7,118	6,744	6,759	6,731	6,751	6,754	6,491	6,388	6,303	6,191	6,019

47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成元	2	3	4
693	743	785	785	832	851	872	895	922	937	950	974	974	982	982	983	999	1,009	1,010	1,032	1,052
5,814	5,703	5,647	5,635	5,633	5,623	5,629	5,616	5,549	5,623	5,616	5,608	5,588	5,549	5,545	5,485	5,471	5,453	5,437	5,488	5,492

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
1,090	1,101	1,119	1,141	1,162	1,169	1,183	1,186	1,190	1,188	1,190	1,193	1,192	1,190	1,189	1,184	1,183	1,180	1,192	1,196	1,189
5,497	5,519	5,502	5,533	5,523	5,518	5,497	5,499	5,483	5,460	5,436	5,439	5,442	5,406	5,411	5,411	5,480	5,560	5,656	5,688	5,661

26	27	28	29	30
1,188	1,206	1,206	1,226	1,238
5,720	5,797	5,781	5,809	5,825

第2表 消防機関の現況

区 分		平成29年4月(A)	平成30年4月(B)	増減(B-A)
消 防 本 部 ・ 署	消 防 本 部 数	9	9	0
	消 防 署 数	19	19	0
	出 張 所 数	28	28	0
	消 防 職 員 数	1,226	1,238	12
消 防 団	消 防 団 数	18	18	0
	分 団 数	234	235	1
	消 防 団 員 数	5,809	5,825	16

第3表 消防の概況

平成30年4月1日現在

区分	消防本部・署所						消防団					消防水利		基地局および固定局	移動局				
	設置別	消防署数	出張所数	(実吏員数)	普通消防ポンプ数	水槽付消防ポンプ数	消防団数	分団数	消防団常備部数	団員数		普通自動車ポンプ数	小型動力ポンプ積載車			積載車	火栓(公設)	防火水槽	
										計	常勤							非常勤	4以上
消防(局)本部名																			
福井市	○	4	15	368	20	3	1	54		1,014	1	52	41	9,530	821	30	15	139	
大野市	○	1	1	55	4		1	10		475	10	21	1	443	286	26	3	37	
勝山市	○	1		38	2	1	1	12		293	2	10		248	197	13	3	42	
永平寺町	○	1		39		3	1	11		277	10	11		177	253	11	3	27	
嶺北消防組合	○	4	1	198	7	4	2	33		722	36	8		1,585	1,226	107	4	89	
鯖江・丹生消防組合	○	1	4	113	5	1	2	38		584	31	10	3	1,647	884	39	5	97	
南越消防組合	○	3	2	149	7	4	3	32		815	12	26	1	2,499	688	32	7	155	
敦賀美方消防組合	○	3	1	152	3	4	3	16		753	25	29	6	1,280	216	166	8	137	
若狭消防組合	○	1	4	126	7	3	4	29		892	9	37	57	1,064	497	56	6	135	
計	1	8	28	1,238	55	23	18	235	0	5,825	136	204	109	18,473	5,068	480	54	858	

第4表 階級別消防職員数

平成30年4月1日現在

区分	消防職員														その他の職員			条 例 定 数
	消防吏員(実員)										小計(B)			事務職員	技術職員	単 純 労 務 職 員	小 計 (C)	
	消防司令	消防正監	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	小計(B)								
消防(局)本部名	うち女性	計(A)	うち女性	計(B)	うち女性	計(C)	うち女性	計(D)	うち女性	計(E)	うち女性	計(F)	うち女性	計(G)	うち女性	計(H)	うち女性	計(I)
福井市	5	383	1	6	26	73	78	50	68	66	368	15	15	()	()	15	()	356
大野市	2	56	()	()	3	8	14	10	8	12	55	1	1	()	()	1	()	55
勝山市	1	40	()	()	5	4	12	5	5	7	38	2	2	()	()	2	()	42
永平寺町	1	39	()	()	3	7	13	3	2	11	39	()	()	()	()	0	()	45
嶺北消防組合	8	202	1	1	8	38	41	31	36	42	198	4	4	()	()	4	()	206
鯖江・丹生消防組合	5	115	()	1	8	26	25	22	12	19	113	2	2	()	()	2	()	113
南越消防組合	5	151	()	1	11	32	42	12	27	24	149	2	2	()	()	2	()	154
敦賀美方消防組合	0	153	()	1	13	23	27	28	27	33	152	1	1	()	()	1	()	156
若狭消防組合	1	127	()	1	4	32	27	7	26	29	126	1	1	()	()	1	()	130
計	28	1,266	0	11	81	243	279	168	211	243	1,238	28	28	0	0	28	0	1,257

注1: 下段の()は、女性職員の内数

注2: 条例定数に含まれない派遣・出向職員および短時間勤務の再任用職員がいるため、条例定数を超えている場合がある

第5表 階級別非常勤消防団員数

平成30年4月1日現在

階級別 消防(局)本部	合計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	条約定数
福井市	1014 (51)	1 ()	8 ()	54 (2)	54 (2)	102 (4)	103 (5)	692 (38)	1,055
大野市	475 (100)	1 ()	2 ()	10 (1)	12 (2)	36 (3)	72 (6)	342 (88)	485
勝山市	293 (23)	1 ()	2 ()	12 ()	12 ()	25 (1)	34 (2)	207 (20)	299
永平寺町	277 (19)	1 ()	2 ()	14 (1)	11 (1)	()	33 (1)	216 (16)	315
嶺北消防組合	722 (16)	2 ()	8 ()	33 ()	52 ()	2 (2)	63 (2)	562 (12)	773
鯖江・丹生消防組合	584 (40)	2 ()	5 ()	37 ()	33 ()	()	83 (2)	424 (38)	647
南越消防組合	815 (51)	3 ()	9 ()	32 (2)	32 (2)	()	83 (5)	656 (42)	826
敦賀美方消防組合	753 (39)	3 ()	4 ()	16 ()	17 ()	51 ()	85 ()	577 (39)	761
若狭消防組合	892 (7)	4 ()	6 ()	29 ()	21 ()	52 (1)	92 ()	688 (6)	894
計	5,825 (346)	18 (0)	46 (0)	237 (6)	244 (7)	268 (11)	648 (23)	4,364 (299)	6,055

注：下段の()は、女性団員の内数

第6表 年齢別消防吏員・消防団員数

平成30年4月1日現在

年齢別 消防(局)本部名	消 防 吏 員										消 防 団 員														
	(A)のうち										平均年齢 (B) (A)	年齢合計 (B)	(C)のうち										平均年齢 (D) (C)	年齢合計 (D)	
	18歳 〜 19歳	20歳 〜 24歳	25歳 〜 29歳	30歳 〜 34歳	35歳 〜 39歳	40歳 〜 44歳	45歳 〜 49歳	50歳 〜 54歳	55歳 〜 59歳	60歳 〜 64歳			65歳 以上	18歳 〜 19歳	20歳 〜 24歳	25歳 〜 29歳	30歳 〜 34歳	35歳 〜 39歳	40歳 〜 44歳	45歳 〜 49歳	50歳 〜 54歳	55歳 〜 59歳			60歳 〜 64歳
吏員数 (A)	20	25	30	35	40	45	50	55	以上	平均年齢 (B) (A)	年齢合計 (B)	団員数 (C)	18	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65		
福井市	368	7	53	41	40	22	53	45	43	64	14,803	1,014	1	12	39	62	135	173	186	150	149	85	22	47,459	46.8
大野市	55	0	8	7	6	7	8	7	7	5	2,140	475	0	5	23	48	54	89	80	70	59	35	12	21,757	45.8
勝山市	38	0	3	5	4	3	9	7	3	4	1,538	293	1	2	11	30	37	65	40	36	47	22	2	13,383	45.7
永平寺町	39	2	4	6	3	4	10	5	1	4	1,474	277	0	25	17	26	40	62	50	29	16	11	1	11,442	41.3
嶺北消防組合	198	9	21	35	22	19	33	34	15	10	7,306	722	2	7	24	63	97	153	147	108	76	27	18	32,487	45.0
鯖江・丹生消防組合	113	3	12	9	20	17	20	13	6	13	4,341	584	2	32	38	96	124	131	108	34	14	2	3	22,980	39.3
南越消防組合	149	6	21	23	12	5	33	18	10	21	5,715	815	0	6	41	55	110	170	154	131	81	50	17	37,139	45.6
敦賀美方消防組合	152	5	17	29	26	25	28	9	5	8	5,319	753	1	29	67	157	182	129	69	45	38	26	10	29,669	39.4
若狭消防組合	126	4	19	24	16	12	15	11	10	15	4,616	892	0	38	99	188	249	188	89	34	7	0	0	33,084	37.1
計	1,238	36	158	179	149	114	209	149	100	144	47,252	5,825	7	156	359	725	1,028	1,160	923	637	487	258	85	249,400	42.8

注:18歳〜19歳の欄は18歳未満含む。

第7表 在職年数別消防吏員および消防団員数

平成30年4月1日現在

年数別 消防(局)本部名	消 防 団 員								消 防 団 員							
	消 防 吏 員				常 勤 団 員				非 常 勤 団 員				常 勤 団 員			
	合 計	5 年 未 満	5 10 年 未 満	10 15 年 未 満	15 20 年 未 満	20 25 年 未 満	25 30 年 未 満	30 年 以 上	合 計	5 年 未 満	5 10 年 未 満	10 15 年 未 満	15 20 年 未 満	20 25 年 未 満	25 30 年 未 満	30 年 以 上
福 井 市	368	90	53	20	34	34	46	91	1,014	266	244	141	119	106	74	64
大 野 市	55	10	8	5	4	9	6	13	475	157	76	73	45	49	36	39
勝 山 市	38	6	3	4	4	9	6	6	293	51	62	49	50	31	36	14
永 平 寺 町	39	10	3	2	6	5	8	5	277	106	76	31	28	25	8	3
嶺 北 消 防 組 合	198	38	38	21	17	30	25	29	722	152	156	129	101	95	47	42
鯖 江・丹 生 消 防 組 合	113	16	20	13	8	25	11	20	584	183	145	111	88	40	12	5
南 越 消 防 組 合	149	32	23	10	12	25	18	29	815	214	150	132	112	93	73	41
敦 賀 美 方 消 防 組 合	152	26	38	22	15	27	11	13	753	254	246	133	48	32	22	18
若 狭 消 防 組 合	126	22	30	11	11	12	13	27	892	329	243	168	90	45	15	2
計	1,238	250	216	108	111	176	144	233	5,825	1,712	1,398	967	681	516	323	228

第8表 消防ポンプ自動車等現有数(消防本部・署)

平成30年4月1日現在

区分	消防本部・署 現有													その他車両												
	普通消防ポンプ自動車	水槽付消防ポンプ自動車	はしご付消防ポンプ自動車 (ポンプ付でないものを含む)	18m級	24m級	30m級	38m級	消防ポンプ自動車	大型高所放水車	泡原液搬送車	化学消防ポンプ自動車	指揮車	照明車		積載車	小型動力ポンプ	広報車	資器材搬送車	屈折放水塔車	水槽車	支援車	人員搬送車	防災指導車	救急自動車	救助工作車	
消防(局)本部名																										
福井市消防局	20	3	2	1	1	1	1	1	1	1	4	5			7	6	4			1	1	1	11 (11)	2	7	
大野市消防本部	4				1						1	1				1	2		1		1		4 (4)	1		
勝山市消防本部	2	1	1		1						1	1				1	1						3 (3)	1	2	
永平寺町消防本部		3										1			2	1	1						3 (3)	1		
嶺北消防組合	7	4				2			1	1	4	5			7	1	5			1	1		8 (8)	3	5	
鯖江・丹生消防組合	5	1					1				2	2				6	2		1				6 (6)	1		
南越消防組合	7	4	1			1					2	3			1	7	5		1	1	1		8 (8)	3		
敦賀美方消防組合	3	4	1				1				2	1			6	1	5		1	1			6 (6)	2	8	
若狭消防組合	7	3				1					1	1			6	6	2				1		7 (7)	1		
計	55	23	4	2	4	3	1	2	17	20	0	0	29	30	27	0	4	4	4	4	4	2	56 (56)	15	22	

注:救急自動車の()書きは高規格救急自動車で内数。

第9表 消防ポンプ自動車等現有数（消防団）

平成30年4月1日現在

種別 消防(局)本部名	消防団現有			
	普通消防ポンプ自動車	水槽付消防ポンプ自動車	小型動力ポンプ	
			小型動力ポンプ付積載車	車両に積載していないもの
福井市	1		52	41
大野市	10		21	1
勝山市	2		10	
永平寺町	10		11	
嶺北消防組合	36		8	
鯖江・丹生消防組合	31		10	3
南越消防組合	12		26	1
敦賀美方消防組合	25		29	6
若狭消防組合	9		37	57
計	136	0	204	109

第10表 化学消火薬剤備蓄状況

平成30年4月1日現在

種別	計		化学消火剤種別												
	(A)	(B)	たんぱく系		合成界面活性剤	水成膜泡消火薬剤	水溶性液体用泡消火薬剤 (耐アルコール用)	粉末(kg)							
	(kg) (ア)～(オ)	(kg) (カ)～(ケ)	3%型 (kg) (ア)	6%型 (kg) (イ)	(kg) (ウ)	(kg) (エ)	(kg) (オ)	第1種 粉末 (カ)	第2種 粉末 (キ)	第3種 粉末 (ク)	第4種 粉末 (ケ)				
消防(局)本部名															
福井市	14.95	0.00	10.50	0.09	1.63	2.39	0.34								
大野市	1.82	0.00			1.82										
勝山市	1.06	0.00			1.06										
永平寺町	0.60	0.00			0.60										
嶺北消防組合	30.08	0.00	4.94		3.30	18.20	3.64								
鯖江・丹生消防組合	4.20	0.00			2.44	1.76									
南越消防組合	3.03	0.00			0.84	2.19									
敦賀美方消防組合	4.99	0.00	0.85		2.66	1.20	0.28								
若狭消防組合	1.34	0.00			1.34										
計	62.07	0.00	16.29	0.09	15.69	25.74	4.26	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

第12表 消防機関の出動状況

平成29年中

区分	種別	県計 (ア)~(カ)	火災 (ア)	風水害 等の 災害 (イ)	演習 訓練 (ウ)	広報 指導 (エ)	警防 調査 (オ)	火災 原因 調査 (カ)	特別 警戒 (キ)	捜索 (ク)	予防 査察 (ケ)	誤報等 (コ)	その他 (サ)
消防本部・署所	出動回数	27,019	175	153	1,877	3,763	5,699	253	1,853	23	12,025	64	1,134
	出動延人数	81,639	2,799	636	12,454	10,773	14,180	1,279	5,386	186	29,851	984	3,111
消防団	出動回数	4,283	105	69	701	522	27	0	634	26	0	28	2,171
	出動延人数	44,979	2,224	1,219	16,726	3,186	418	0	6,706	220	0	210	14,070

第13表 消防吏員・団員の公務による死傷者数

平成29年中

区分	種別	県計 (ア)~(キ)	火災 (ア)	風水害 等の 災害 (イ)	救急 業務 (ウ)	演習 訓練 (エ)	特別 警戒 (オ)	捜索 (カ)	その他 (キ)
消防吏員	死者	0	0	0	0	0	0	0	0
	負傷者	13	3	1	1	5	0	0	3
消防団	死者	0	0	0	0	0	0	0	0
	負傷者	2	0	0	0	2	0	0	0

第14表 火災通報施設等の現況

平成30年4月1日現在

区分	火災報知機			テレビ 監視装置 (基)	望楼		電話				救急指令装置		
	受信機 (基)	発信機			小計 (ウ)+(エ) (基)	24時間 監視体 制をとつ ているも の (ウ) (基)	その他 (エ) (基)	小計 (カ)+(キ)+(ク) (回線)	消防機関にあるもの		救急 指令 専用	消防 指令 装置と併用	
		小計 (ア)+(イ) (基)	公衆用 (ア) (基)						自衛用 (イ) (基)	火災報知 専用電話 (カ) (回線)			消防電話 1ヶ月あた りの経費 (キ) (回線)
消防(局)本部名													
福井市	0				0		165	26	99	160	40		1
大野市	0			1	0		39	13	2	5	24		
勝山市	0				0		13	7			7		
永平寺町	0				0		17	12			5		1
嶺北消防組合	0				0		47	14			33		
鯖江・丹生消防組合	0				0		55	13	5	229	37		1
南越消防組合	0				0		55	12	2	6	41		
敦賀美方消防組合	0				0		42	11	9	254	22		
若狭消防組合	0			1	0		40	8	8		24		
計	0	0	0	2	0	0	473	116	125	654	233	0	3

第15表 無線通信施設等の現況

平成30年4月1日現在

種別 消防(局) 本部長	消防・救急業務用無線(デジタル方式)											携帯電話等			
	固定局		基地局および携帯基地局							移動局		その他の無線局数	衛星携帯電話保有数	救急車および救急隊	うち災害時 優先電話
	局数		局数		電波の数			陸上移動局数	携帯局数						
	多重	その他	基地局	携帯基地局	統制波	主運用波	活動波			防災相互波					
福井市	6			9		3	1	5		72	67		1	11	8
大野市				3		3	1	2		37			3	4	3
勝山市		13	13	3		3	1	2		42			1	2	2
永平寺町				3		3	1	2		12	15		1	3	3
嶺北消防組合				4		3	1	3		89			1	9	
鯖江・丹生消防組合				5		3	1	2		97			3	6	6
南越消防組合				7		3	1	3		155			5	8	8
敦賀美方消防組合				8		3	1	2		137			3	6	5
若狭消防組合				6		3	1	2	1	135			1	6	6
計	6	13	13	48	0	27	9	23	1	776	82	0	19	55	41

第16表 幼年消防クラブの現況

平成30年4月1日現在

種別	組織別クラブ数					組織別クラブ員数					指導者数					
	計	幼稚園 保育園 単位	学校 単位	市町村 単位	地区 単位	その他	計	幼稚園 保育園 単位	学校 単位	市町村 単位	地区 単位	その他	計	幼稚園 保育園 単位	学校 単位	その他
消防(局)本部名																
福井市	2	2					44	44					2	2		
大野市	16	16					1,067	1,067					15	15		
勝山市	13	13					474	474					225	225		
永平寺町	10	10					626	626					51	51		
嶺北消防組合	46	46					4,474	4,474					46	46		
鯖江・丹生消防組合	38	38					1,574	1,574					104	104		
南越消防組合	37	37					824	824					37	37		
敦賀美方消防組合	35	35					2,736	2,736					35	35		
若狭消防組合	1	1					31	31					4	4		
計	198	198	0	0	0	0	11,850	11,850	0	0	0	0	519	519	0	0

第17表 少年消防クラブの現況

平成30年4月1日現在

種別	組織別クラブ数					組織別クラブ員数					指導者数						
	計	学校単位		市町村単位	地区単位	その他	計	学校単位		市町村単位	地区単位	その他	計	学校単位		その他	
		小学校	中学校					小学校	中学校					小学校	中学校		
消防(局)本部名																	
福井市	50	50					2,559	2,559					80	80			
大野市	15	10	5			453	368	85					15	10	5		
勝山市	16	3		4	9	861	354				73	434	50	6			44
永平寺町	13				13	198						198	30				30
嶺北消防組合	26	26				1,087	1,087						26	26			
鯖江・丹生消防組合	20	20				2,675	2,675						120	120			
南越消防組合	21	21				869	869						21	21			
敦賀美方消防組合	12	12				219	219						12	12			
若狭消防組合	0					0							0				
計	173	142	5	4	22	8,921	8,131	85	0	73	632	354	275	5			74

第18表 女性防火クラブの現況および活動状況

平成30年4月1日現在

種別	合計		周囲の状況						活動状況別組織数			
	組織数 (ア)+(イ)+(ウ)+(エ)	人員 (カ)+(キ)+(ク)+(ケ)	市街地		農山村地域		漁村地域		消火活動 を行う	消火活動は 行わないが、連 吹き出し、連 絡、救護等を行 う	(a)(b)は行 わず、予防の 啓蒙活動を行 っている	(c)
			組織数 (ア)	人員 (カ)	組織数 (イ)	人員 (キ)	組織数 (ウ)	人員 (ク)				
消防(局)本部名												
福井市	40	1,708	15	485	22	757	3	466	9			31
大野市	4	112			4	112			3	1		
勝山市	9	210	3	120	6	90			9			
永平寺町	1	20	1	20								1
嶺北消防組合	2	567	2	567								2
鯖江・丹生消防組合	21	1,271	6	122	12	509	3	640	12			9
南越消防組合	21	221	13	119	8	102				21		
敦賀美方消防組合	9	1,559	2	1,480	4	59	3	20	7	2		
若狭消防組合	16	208			8	152	8	56	16			
計	123	5,876	42	2,913	64	1,781	17	1,182	56	24		43

第19表 消防表彰受賞状況

種 類		年 度										
		20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
叙 勲		23	24	23	22	21	22	23	21	31	33	
藍 綬 褒 章			1				3	3	2			
消 防 庁 長 官 表 彰	功 勞 章	2	1	2	1	2	2	2	1	1	1	
	永年勤続功労章	20	20	21	21	21	21	21	22	22	23	
	表 彰 旗											
	竿 頭 綬						1	1	1			
	消防団 地域 活動	消 防 団		1	1	1	1	1	1	1	1	
		事 業 所		1	1	1			1			
	少 年 消 防 ク ラ ブ	表 彰 旗			1			1				
		表 彰 楯	2	1		1	1		1	1	1	
		指 導 者										
	福 井 県 知 事 表 彰	功 勞 章	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
永年勤続精績章		154	141	142	155	152	154	177	132	168	149	
銀 杯		30 年 以 上										
		退職10～15年未満	66	75	66	70	67	71	73	49	55	67
感 謝 状		退 職 幹 部	23	24	24	22	22	33	16	49	23	20
		人 命 救 助 そ の 他										
		夫 人 表 彰	26	22	36	33	28	26	33	33	31	26
竿 頭 綬						35	46	46	47	49		
特 別 功 勞 章												

第7章 消防教育訓練

1 消防学校の概要

(1) 沿革

昭和34年7月16日 福井市水越町に福井県消防学校設置。
 昭和47年11月1日 福井市合谷町へ移転。
 平成8年4月1日 福井市大畑町へ再移転、現在に至る。

(2) 施設概要

ア 所在地等 (ア) 所在地 福井市大畑町97-21-3
 (イ) 敷地面積 40,759.02㎡
 イ 建物工作物等

建物構造および規模

・ 敷地面積……………40,759.02㎡ ・ 建物延面積…………… 8,001.62㎡

名称	規模・構造	延べ面積(㎡)	内 容
教育管理棟 宿泊施設(3階)	RC造3階	3,249㎡	1階 校長室 講師控室 職員室 会議室 防災倉庫 2階 普通教室(60人)(40人) 談話室 図書室 視聴覚室 理化学室(各種実習室併設) 等 3階 寮室(20室) トレーニングルーム 娯楽室
体育館	鉄骨造2階建	2,106.25㎡	1階 食堂 学生ホール 和室 倉庫 2階 アリーナ
雨天訓練場	鉄骨平屋建	1,091.22㎡	訓練場(救助、ポンプ操法訓練施設) 訓練資器材庫 訓練車両庫
訓練塔(主)	SRC造 地下1階建 地上8階建	594.84㎡	立坑訓練室 耐煙迷路室 消火設備実験室 垂直救助訓練 水平ロープ渡過 ブリッジ救出訓練施設 放水訓練室 水平救助・担架吊り下げ救出訓練施設 梯子車注水訓練室 積載梯子上救出訓練施設 梯子車進入訓練室 高所活動・人命検索訓練施設 救助袋等避難器具取扱訓練室 地下火災実験室
訓練塔(補助)	鉄骨造 地上7m	A塔 70.44㎡ B塔 32.86㎡	人命救助訓練施設 引上救助訓練施設 中高層建物防御訓練施設 斜め救助訓練施設 障害突破 垂直降下訓練施設
水難訓練用プール (兼、潜水訓練)	FRP製	25m×5コース 水深1.5m～3.0m 容量630m³ 採水口4箇所(ポンプ車用) 機械室・便所(34.43㎡)	
その他施設			油火災消火訓練施設(耐火レンガ造) 直径3m×高さ0.5m 防火訓練壁 幅14m×高さ4m 受水槽20㎡ 煙道訓練施設 間口1.0m×1.0m 模擬火災訓練家屋(可搬式プレハブ型模擬ハウス) 山岳救助訓練施設(25m×60m)
屋外訓練場		7,800㎡(120m×65m)	1周200mグラウンド

2 教育訓練

消防職団員の各種教育訓練を第1表および第2表のように実施し、人的消防力の充実向上を図るとともに、より高度の専門的知識を修得させた。
 また、第3表のとおり消防大学校へ職員が派遣された。

平成29年度 消防(局)本部別受講者数

区分	教育訓練の種類	項目	実施年月日	教育 実日数	延時間	消防(局)本部										合計	
						福井	敦賀美方	南越	若狭	大野	勝山	鯖江丹生	嶺北	永平寺	その他		
消防職員	初任教育(第52期) 幹部教育 初級幹部科(第42期) 中級幹部科 上級幹部科(第12期) 警防科 専科 特殊災害科(第8期) 予防査察科(第14期) 危険物科 教育 火災調査科(第22期) 救助科(第41期) 救急科(第25期) 水難救助科(第22期) 特別講座等 操法指導員教育 起震車操作員教育(新規養成)	初任教育(第52期) 幹部教育 初級幹部科(第42期) 中級幹部科 上級幹部科(第12期) 警防科 専科 特殊災害科(第8期) 予防査察科(第14期) 危険物科 教育 火災調査科(第22期) 救助科(第41期) 救急科(第25期) 水難救助科(第22期) 特別講座等 操法指導員教育 起震車操作員教育(新規養成)	29. 4. 4~9. 26	120	835	13	3	7	4	1	3	7	3	1	42		
			29. 12. 4~12. 15	10	70	4	2	3	2	1	2	3	1	19			
			隔年実施のため中止														
			29. 6. 26~6. 28	3	21	4	2	1	2	1	1	1	2	1	15		
			隔年実施のため中止														
			29. 11. 21~11. 30	7	49	4	2	3	2	1	1	1	3	17			
			豪雪により中止(30.2.8~2.22)	10	70												
			隔年実施のため中止														
			30. 1. 10~1. 23	10	70	4	2	3	2	1	1	1	3	1	18		
			29. 10. 10~11. 10	23	161	4	2	3	2	1	1	2	4	1	20		
消防団員	初級幹部科 指揮幹部科 現場指揮課程 分団指揮課程 消防団員指導員教育(日消) 小計 自衛消防隊幹部教育 女性防火クラブ員教育(第1回) 自主防災組織員教育(第1回) 自主防災組織員教育(第2回)嶺南 自主防災組織員教育(第3回) 小計 合計	初級幹部科 指揮幹部科 現場指揮課程 分団指揮課程 消防団員指導員教育(日消) 小計 自衛消防隊幹部教育 女性防火クラブ員教育(第1回) 自主防災組織員教育(第1回) 自主防災組織員教育(第2回)嶺南 自主防災組織員教育(第3回) 小計 合計	29. 1. 24~3. 15	36	252	8	5	6	4	2	1	3	8	2	41		
			29. 7. 5~7. 21	12	84	5	2	2	2			1	4	16			
			(下記公開講座に記載)														
			29. 4. 13~4. 14	2	14	5	4	4	4	4	2	4	2	33			
			29. 5. 18	1	3	5	4	3	2	1	2	6	3	26			
			29. 11. 11~11. 12	234	1,629	56	28	35	26	13	11	24	41	11	2	247	
			29. 11. 11~11. 12	2	12	10	6	3	7	6	2	6	4	2	46		
			29. 11. 25~11. 26	2	14	5	6	3	4	3	2	2	3	1	29		
			29. 12. 9~12. 10	2	10	5	5	2	8	2	2	4	3	3	32		
			29. 11. 4~11. 5	2	12	1	3	3	4	1	2	2	2	1	17		
一般・その他	小計 自衛消防隊幹部教育 女性防火クラブ員教育(第1回) 自主防災組織員教育(第1回) 自主防災組織員教育(第2回)嶺南 自主防災組織員教育(第3回) 小計 合計	小計 自衛消防隊幹部教育 女性防火クラブ員教育(第1回) 自主防災組織員教育(第1回) 自主防災組織員教育(第2回)嶺南 自主防災組織員教育(第3回) 小計 合計	29. 11. 4~11. 5	8	48	21	20	11	23	10	6	14	12	7	124		
			29. 12. 14	1	7	5	17	11	5	8	2	1	6	1	56		
			30. 3. 4	1	6	8	6	1	4	5	2	2	6	3	37		
			29. 10. 1	1	3	4		3		15	4	1	5	5	37		
			29. 12. 3	1	3	44									44		
			豪雪により中止30. 2. 4	1	3												
			29. 11. 4~11. 5	5	22	17	67	15	9	28	8	4	17	9	174		
			29. 11. 4~11. 5	247	1,699	94	115	61	58	51	25	42	70	27	2	545	
			29. 6. 27	1	4	10	3	7	3	2	1	2	4	3	35		
			29. 11. 27	1	4	8	5	4	2	1	2	3	4	2	31		
公開講座	上級幹部科 特殊災害科 火災調査科 救急科	上級幹部科 特殊災害科 火災調査科 救急科	30. 1. 17	1	4	4	3	2	3	2	4	4	3	27			
			30. 2. 19	1	4	6	7	4	7	3	6	2	42				
			合計	4	16	28	18	17	15	5	12	18	10	135			
公	開	講	座	合計	251	1,715	122	133	78	73	56	37	54	88	37	2	680

第2表 平成29年度消防学校教育訓練実施状況

区分	項目	入校者数	教育実日数	教育時間数	担当講師別時間数				
					学校	県	消防	専門	
消防職員	初任教育(第52期)	42	120	835	537	31	210	57	
	幹部教育	初級幹部科	19	10	70	16	9	17	28
		中級幹部科							
		上級幹部科(第12期)	15	3	21	2	5	10	4
	専科教育	警防科							
		特殊災害科(第8期)	17	7	49	26	6		17
		危険物科							
		火災調査科(第22期)	18	10	70	7	9	37	17
		救助科(第41期)	20	23	161	23	8	109	21
	特別教育	救急科(第25期)	41	36	252	7	7	65	173
		水難救助科(第22期)	16	12	84	8		76	
		操法指導員教育	33	2	14	2		14	
		起震車操作員教育	26	1	3	3			
小計		247	224	1,561	631	75	538	317	
消防団員	初級幹部科	46	2	12	12				
	指揮幹部科						13		
		現場指揮課程	29	2	14	1			
		分団指揮課程	32	2	10	6	2		
	消防団指導員教育(日消)	17	2	12	10	2			
小計		124	8	48	29	4	13	2	
一般・その他	自衛消防隊幹部教育	56	1	7	6	1			
	女性防火クラブ員教育	37	1	6	6				
	自主防災組織員教育	81	2	6	4	2			
	小計		174	4	19	16	3	0	0
合計		545	236	1,628	676	82	551	319	
公開講座	上級幹部科	35	1	4				4	
	特殊災害科	31	1	4				4	
	火災調査科	27	1	4				4	
	救急科	42	1	4				4	
	公開講座合計		135	4	16	0	0	0	16
総合計		680	240	1,644	676	82	551	335	

第3表 平成29年度消防大学校派遣者数

学 科	派遣者数	備 考
幹部科	(第49期)	福井
	(第50期)	敦賀美方
	(第51期)	消防学校、嶺北
	(第52期)	南越、鯖江・丹生
上級幹部科	(第81期)	1 勝山
警防科	(第101期)	2 大野
	(第102期)	鯖江・丹生
救助科	(第75期)	1 福井
救急科	(第79期)	1 若狭
予防科	(第100期)	1 鯖江・丹生
危険物科	(第12期)	2 嶺北、敦賀美方
火災調査科	(第34期)	1 鯖江・丹生
新任教官科	(第11期)	1 若狭
現任教官科(総務・予防)	(第1期)	1 消防学校
現任教官科(警防)	(第1期)	1 消防学校
高度・特別高度救助コース	(第7回)	1 敦賀美方
航空隊長コース	(第17回)	1 防災航空事務所
危機管理・国民保護コース	(第7回)	4 消防学校、敦賀美方、福井市役所、嶺北
自主防災組織育成コース	(第13回)	2 嶺北、消防学校
自主防災組織育成短期コース	大阪会場	2 南越、越前市
女性消防吏員活躍推進講習会	(第2回)	1 鯖江・丹生
合計		29

防 災 編

第1章 災害の発生状況

1 平成29年中の災害発生状況

(1) 人的被害

重傷者3人、軽傷者13人

(2) 住家被害

全壊2棟、半壊6棟、一部破損649棟、床上浸水5棟、床下浸水66棟

第1表 平成29年中の災害発生状況

発生年月日 区分	災害名	発生年月日												計							
		1月12日	1月15日	1月17日	1月21日	1月23日	1月26日	1月28日	2月10日	2月12日	2月13日	2月16日	3月9日		台風5号 8月7日 ～8日	大雨 8月12日	大雨 8月25日	台風18号 9月18日	台風21号 10月22日 ～23日	台風22号 10月29日 ～30日	
人的被害	死者																			0	
	行方不明者																			0	
	負傷者		1				1											1		3	
住家被害	軽傷		1	1		1	1											4		13	
	全壊																	1		2	
	半壊																	6		6	
	一部破損								28	1								609		649	
	床上浸水																	5		5	
	床下浸水																	57		66	
非住家	公共建物																	9		9	
	その他								4									87		93	
その他	流失・埋没																			0	
	田																	3		205	
	冠水																			0	
	流失・埋没																			0	
の	煙																			3	
	冠水																			3	
	学校																	20		20	
	病院																	1		1	
の	道路																			1	
	橋りょう																		127	1	132
	箇所																	1		1	
他	箇所																			1	
	河川																	89		113	

2 過去5年間の災害発生状況（平成25年～29年）

年月日	種類	被害状況	気象状況
2013 (平25) 4.6	暴風	(1)住家被害 一部破損 1棟 (2)公共施設被害 219千円 (3)その他被害 1,330千円	日本海と日本の南岸をそれぞれ低気圧が急速に発達しながら北東に進んだ。 (日最大風速) 敦賀 21.1m/s(南南東)16時44分 (日最大瞬間風速) 敦賀 32.2m/s(南南東)16時59分
2013 (平25) 4.13	地震	(1)人的被害 重傷 1人	淡路島付近を震源とする地震 4月13日05時33分 M6.3 深さ15km 北緯 34度25.1分 東経 134度49.7分 震度3 小浜市、高浜町、おおい町
2013 (平25) 7.7	強風	(1)住家被害 一部破損 2棟	梅雨前線に向かって南から暖かく湿った空気が入り、大気の状態が不安定となり積乱雲が通過中であった。 (日最大風速) 福井 4.6m/s(南南東)21時46分 大野 6.4m/s(北)17時17分 (日最大瞬間風速) 福井 7.8m/s(西南西)16時46分 大野 15.9m/s(北西)17時11分
2013 (平25) 7.13	大雨	(1)住家被害 床上浸水 1棟 床下浸水 9棟	日本海から東北地方にのびる梅雨前線に、南から湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が不安定となった。 (日最大1時間降水量(13日)) 福井 55.0 [㎜] (日降水量(13日)) 福井 69.0 [㎜] 、勝山 82.0 [㎜]
2013 (平25) 7.29	大雨	(1)住家被害 床下浸水 2棟 (2)公共施設被害 162,120千円 (3)災害対策本部設置市町 越前市	日本海から北陸地方にのびる梅雨前線に、湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が不安定となった。 (日最大1時間降水量(29日)) 敦賀 27.5 [㎜] (日降水量(29日)) 福井 137.5 [㎜] 、勝山 175.0 [㎜]
2013 (平25) 8.23	竜巻	(1)人的被害 軽傷 1人 (2)住家被害 半壊 3棟 一部破損 70棟 (3)公共施設被害 134千円	日本海の前線に向かって暖かく湿った気流が入り、大気の状態が非常に不安定となり、小浜では竜巻(F1)と推定される現象が発生した。 (日最大風速) 敦賀 9.8m/s(北)19時10分 小浜 8.7m/s(北西)16時33分 (日最大瞬間風速) 敦賀 13.3m/s(北)19時05分 小浜 17.5m/s(北北西)16時27分

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2013 (平25) 8.24	大雨	(1)公共施設被害 29,290 千円 (2)災害対策本部設置市町 越前市	本州付近に停滞する前線の影響で、曇り時々雨となり、嶺北の一部では大雨となった。 (日最大1時間降水量) 今庄 38.0ミリ (日降水量) 今庄 111.0ミリ
2013 (平25) 8.31	大雨・ 強風	(1)住家被害 一部破損 2棟 (2)公共施設被害 1,216 千円	台風第15号から変わった温帯低気圧からのびる寒冷前線が県内を通過した。 (日最大風速) 福井 10.0m/s(西南西)17時22分 勝山 15.4m/s(北西)17時41分 (日最大瞬間風速) 福井 19.9m/s(西北西)17時15分 勝山 29.5m/s(北西)17時34分
2013 (平25) 9.3	大雨	(1)住家被害 床上浸水 1棟 床下浸水 25棟	北陸地方に前線が停滞していた。前線に向かって南から暖かく湿った空気が入ったため、前線の活動が断続的に活発になった。 (日最大1時間降水量) 福井 47.0ミリ (日降水量) 福井 87.0ミリ
2013 (平25) 9.16	台風 18号	(1)人的被害 死者 1人 (2)住家被害 全壊 5棟 半壊 2棟 一部破損 13棟 床上浸水 78棟 床下浸水 320棟 (3)非住家被害 その他 19棟 (4)公共施設被害 2,906,000 千円 (5)その他被害 75,815 千円 (6)災害対策本部設置市町 敦賀市、小浜市、越前市、 美浜町、おおい町、若狭町	台風第18号が日本の南海上を北上していた。台風の北側に広がる雨雲域が県嶺南を中心にとどまった。 05:05に大雨特別警報を発表した。 (日最大1時間降水量) 敦賀25.0ミリ、小浜38.5ミリ (24時間降水量) 敦賀 215.0ミリ、小浜 384.0ミリ
2013 (平25) 10.15	台風 26号	(1)その他被害 31 千円	台風第26号が本州の南海上を北上したため、大雨となったところがあった。 (日最大風速) 三国 9.2m/s(北東)22時15分 (日最大瞬間風速) 三国 15.7m/s(北東)22時31分 (日最大1時間降水量) 九頭竜 16.5ミリ (日降水量) 九頭竜 60.0ミリ
2013 (平25) 11.25	強風	(1)人的被害 軽傷 1人	低気圧が発達しながら日本海中部を北東に進み、低気圧の中心からのびる寒冷前線が25日夕方頃通過した。 (日最大風速) 福井 16.1m/s(南南東)11時57分 三国 18.7m/s(南南東)08時59分 (日最大瞬間風速) 福井 23.9m/s(南東)11時53分 敦賀 28.2m/s(南南東)07時47分

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2013 (平25) 12.15 ～ 2014 (平26) 3.31	大雪	(1)人的被害 軽傷 1人	12月上旬の終わりころから短い周期で低気圧が通過し、その後冬型の気圧配置となり、1月中旬には強い寒気の影響で気温が低くなった。 (日降雪量最大) 福井 16センチ 2月8日 敦賀 15センチ 12月28日 九頭竜 35センチ 12月12日 大野 25センチ 2月8日 武生 25センチ 2月8日 今庄 33センチ 12月28日 小浜 18センチ 12月28日 (最深積雪最大値) 福井 17センチ 1月11日 敦賀 21センチ 12月29日 九頭竜 101センチ 2月16日 大野 32センチ 12月29日 武生 22センチ 2月8日 今庄 35センチ 12月29日 小浜 16センチ 12月29日
2014 (平26) 5.12	強風	(1)その他被害 その他 3件 (2)農産被害 1,660千円	日本の東に高気圧があつて、一方、中国東北区に前線を伴った低気圧が北東に進んだため、日本付近は気圧の傾きが大きくなり、福井県では12日朝をピークに強風が吹いた。 (日最大風速) 敦賀 19.1m/s(南南東)07時58分 三国 17.7m/s(南南東)09時47分 (日最大瞬間風速) 敦賀 29.1m/s(南南東)07時51分 美浜 26.6m/s(南南東)21時14分
2014 (平26) 7.10	台風 8号	(1)その他被害 道路 1箇所 (2)公共土木施設被害 22,267千円	鹿児島県阿久根市付近に上陸した台風第8号が本州の南を東進した影響で、南から暖かく湿った空気が流れ込み、奥越中心に時々雨となった。 (日最大1時間降水量(10日)) 九頭竜 30.0 [㎜] 、美浜 5.0 [㎜] (日降水量(10日)) 九頭竜 79.5 [㎜] 、美山 11.0 [㎜] (日最大風速) 三国 11.8m/s(南南東)07時35分 敦賀 9.9 m/s(南東)15時50分 (日最大瞬間風速) 敦賀 17.3m/s(南南東)15時41分 三国 16.4 m/s(南南東)07時31分
2014 (平26) 7.17	大雨・ 強風・ 落雷	(1)非住家被害 その他 1棟 (2)電気被害 4,530戸 (3)その他公共施設被害 840千円	梅雨前線に向かって湿った空気が流れ込んだ影響で、大気の状態が不安定となった。 (日最大1時間降水量(17日)) 小浜 32.5 [㎜] 、春江・美浜 14.0 [㎜] (日降水量(17日)) 小浜 33.0 [㎜] 、勝山 24.0 [㎜] (日最大風速) 小浜 14.3m/s(一)14時07分 勝山 7.3m/s(北北西)14時27分 (日最大瞬間風速) 小浜 33.8m/s(一)14時02分 勝山 11.7m/s(北西)14時22分

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2014 (平 26) 7. 20	大雨	(1)住家被害 床下浸水 1 棟 (2)その他 道路 2 箇所 (3)その他 河川 5 箇所 (4)電気被害 2,163 戸 (5)農林水産業施設被害 16,864 千円 (6)公共土木施設被害 197,796 千円 (7)その他の公共施設被害 1,051 千円	上空に寒気を伴った気圧の谷と湿った空気 の影響で、大気の状態が非常に不安定となっ た。 (日最大1時間降水量(20日)) 三国 56.5 [㎜] 、福井 52.5 [㎜] (日降水量(20日)) 福井 77.5 [㎜] 、勝山 71.0 [㎜]
2014 (平 26) 8. 9	台風 11号	(1)人的被害 軽傷 1人 (2)住家被害 一部破損 1 棟 (3)田 冠水 17.5ha (4)畑 冠水 22.1ha (5)その他 道路 5 箇所 (6)その他 河川 10 箇所 (7)その他 砂防 10 箇所 (8)その他 崖くずれ 3 箇所 (9)電気被害 30 戸 (10)その他 その他被害 9 箇 所 (11)農林水産業施設被害 41,707 千円 (12)公共土木施設被害 267,506 千円 (13)その他の公共施設被害 8,603 千円	台風第11号が四国の南海上を北上し、北陸 地方の沿岸に停滞した前線に南からの暖かく 湿った空気の影響で大雨となった。 (日最大1時間降水量(9日)) 大飯 18.0 [㎜] 、越廼 11.5 [㎜] (日降水量(9日)) 大飯 102.0 [㎜] 、美浜 71.5 [㎜] (日最大風速) 小浜 9.2m/s(東南東)18時52分 敦賀 8.1m/s(南南東)22時14分 (日最大瞬間風速) 小浜 18.8m/s(南東)23時59分 美浜 15.5m/s(東)22時09分
2014 (平26) 8.15	大雨	(1)住家被害 床下浸水 1 棟	北陸地方に停滞する前線に向かって、暖か く湿った空気が流れ込み、雨で雷を伴い、大 雨となった。 (日最大1時間降水量(15日)) 春江 33.5 [㎜] 、越廼 30.5 [㎜] (日降水量(15日)) 越廼 83.5 [㎜] 、勝山 75.0 [㎜]
2014 (平 26) 8. 26	大雨	(1)その他 砂防 2 箇所 (2)その他の公共施設被害 2,062 千円	前線を伴った低気圧が北陸地方を東進した 影響で、雨時々曇りで嶺北を中心に雷を伴い 大雨となった。 (日最大1時間降水量(26日)) 春江 33.5 [㎜] 、三国 24.0 [㎜] (日降水量(26日)) 春江 87.5 [㎜] 、三国 67.0 [㎜]
2014 (平26) 10. 5	台風 18号	(1)電気被害 3,080 千円	高気圧に覆われましたが、台風第18号が西 日本太平洋側に北上したため、雨一時曇りと なった。 (日最大1時間降水量(5日)) 敦賀 6.0 [㎜] 、武生 5.0 [㎜] (日降水量(5日)) 九頭竜 9.5 [㎜] 、武生 8.0 [㎜] (日最大風速) 三国 7.6m/s(北東)19時37分 春江 5.4m/s(北)18時24分 (日最大瞬間風速) 三国 13.8m/s(北東)18時06分 春江 7.2m/s(北)18時23分 越廼 7.2m/s(東北東)19時11分

年月日	種類	被害状況	気象状況
2014 (平26) 10.13	台風 19号	(1)その他被害 河川 1箇所 (2)その他被害 港湾 1箇所 (3)その他被害 砂防 1箇所 (4)公共土木施設被害 82,291千円	台風第19号は鹿児島県枕崎市付近に上陸し、その後、三重県津市付近を東北東に進み、勢力を維持したまま東海地方から関東地方北部へ速度を速めながら北東に進んだため、雨時々曇りで夜は大雨となった。 (日最大1時間降水量(13日)) 三国 23.5 ^{mm} 、越廼 22.0 ^{mm} (日降水量(13日)) 大飯 112.5 ^{mm} 、九頭竜 91.5 ^{mm} (日最大風速) 小浜 15.9m/s(北)22時16分 春江 14.7m/s(北)23時24分 (日最大瞬間風速) 小浜 26.4m/s(北北西)23時49分 福井 21.5m/s(北北西)23時02分
2014 (平26) 12.2	強風・ 波浪	(1)公共土木施設被害 2,616千円	日本付近は強い冬型の気圧配置となり、雨一時みぞれ又は雪で、雷やあられを伴ったところがあった。 (日最大風速) 越廼 13.0m/s(西)00時31分 春江 11.9m/s(西)00時31分 (日最大瞬間風速) 三国 23.0m/s(西北西)05時36分 越廼 21.7m/s(西)09時39分
2014 (平26) 12.3	竜巻	(1)その他被害 その他 2箇所	強い冬型の気圧配置となり、上空の寒気の影響により大気の状態が不安定となり、坂井市では竜巻(F0)と推定される現象が発生した。 (日最大風速) 福井 8.1m/s(南西)06時20分 三国 10.3m/s(西南西)01時10分 (日最大瞬間風速) 福井 14.0m/s(南南西)06時13分 三国 23.1m/s(西南西)01時02分
2014 (平26) 12.5	強風・ 波浪	(1)住家被害 一部破損 1棟 (2)その他被害 その他 2箇所 (3)公共土木施設被害 215,500千円	上空に寒気を伴った気圧の谷が通過し、冬型の気圧配置が強まり大気の状態が不安定となった。 (日最大風速) 越廼 11.6m/s(西)07時01分 敦賀 11.4m/s(西)16時20分 (日最大瞬間風速) 三国 20.7m/s(西)10時52分 越廼 20.2m/s(西南西)06時07分

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2014 (平26) 12.7 ～ 2015 (平27) 3.31	大雪	(1)人的被害 死者 1人 重傷 3人 軽傷 4人 (2)非住家被害 その他 1棟 (3)公共土木施設被害 103,931千円	12月は冬型の気圧配置や寒気を伴った気圧の谷の影響で、雪や雨の日が多く、気温はかなり低くなった。1月、2月は上旬に冬型の気圧配置が強まり大雪となった。 (日降雪量最大) 福井 32センチ1月1日 敦賀 34センチ2月9日 九頭竜 65センチ12月22日 大野 42センチ12月22日 武生 33センチ1月2日 今庄 51センチ1月1日 小浜 38センチ1月1日 (最深積雪最大値) 福井 56センチ1月2日 敦賀 64センチ2月10日 九頭竜 227センチ2月14日 大野 115センチ1月3日 武生 50センチ1月3日 今庄 113センチ1月3日 小浜 44センチ1月2日
2014 (平26) 12.13	落雷	(1)その他被害 河川 1箇所 (2)公共土木施設被害 6,984千円	冬型の気圧配置が強まったため、みぞれや雪で雷やあられを伴ったところがあった。 (日最大1時間降水量(13日)) 今庄 10.0 ^{ミリ} 、武生 9.5 ^{ミリ} (日降水量(13日)) 今庄 68.0 ^{ミリ} 、武生 41.5 ^{ミリ} (日最大風速) 越廼 12.4m/s(西)20時01分 三国 11.9m/s(西北西)06時46分 (日最大瞬間風速) 三国 21.5m/s(西)14時06分 越廼 20.0m/s(西南西)17時41分
2014 (平26) 12.16	風浪	(1)その他被害 道路 2箇所 (2)その他被害 河川 1箇所 (3)その他被害 港湾 1箇所 (4)その他被害 海岸 4箇所 (5)公共土木施設被害 892,684千円	日本海北部にある発達中の低気圧からのびる寒冷前線が通過したため、雨で雷やあられを伴ったところがあった。 (日最大風速) 越廼 13.9m/s(西北西)23時06分 春江 12.2m/s(西)22時44分 (日最大瞬間風速) 三国 24.7m/s(西北西)18時54分 越廼 21.3m/s(西)22時56分
2014 (平26) 12.17	斜面崩壊	(1)その他被害 崖くずれ 1箇所	強い冬型の気圧配置となったため、雪時々曇りで雷やあられを伴ったところがあった。 (日最大1時間降水量(17日)) 今庄 8.0 ^{ミリ} 、美山 7.5 ^{ミリ} (日降水量(17日)) 武生 38.0 ^{ミリ} 、美山 38.0 ^{ミリ}

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2015 (平27) 1.11	強風	(1)住家被害 一部破損 42棟 (2)非住家被害 公共建物 2棟 その他 5棟 (3)その他被害 28,917千円	日本付近は強い冬型の気圧配置となり、福井県では、寒気を伴った上空の気圧の谷の影響で、大気の状態が非常に不安定となった。 坂井市三国町楽円からあわら市市姫で発生した突風は、竜巻(F0)と推定。坂井市三国町米納津から坂井町木部新保で発生した突風は、竜巻(F1)と推定。 (日最大風速) 敦賀 15.4m/s(北北西)19時12分 春江 13.0m/s(北)18時56分 (日最大瞬間風速) 三国 21.9m/s(西北西)16時08分 敦賀 21.0m/s(北北西)19時08分
2015 (平27) 7.17～18	台風 11号	(1)その他被害 河川 4箇所 (2)その他被害 砂防 9箇所 (3)公共土木施設被害 272,580千円 (4)その他の公共施設被害 6,472千円	17日夜に山陰沖に進んだ台風第11号は、18日には熱帯低気圧に変わり日本海を北東に進んだため大雨となったところがあった。 (日最大1時間降水量(18日)) 美浜 17.5 [㎜] 、敦賀 17.0 [㎜] (日降水量) 小浜 84.5 [㎜] (17日)、 敦賀 79.5 [㎜] (18日)
2015 (平27) 8.5	落雷	(1)人的被害 重傷 1人	南から湿った空気と上空寒気により大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨となったところがあった(福井地方气象台で14:12から14:40に雷電を観測)。
2015 (平27) 8.25	台風 15号	(1)人的被害 軽傷 2人 (2)その他の公共施設被害 216千円	強い台風第15号は25日06時過ぎには熊本県荒尾市付近に上陸した後、北に進み10時には日本海に達した。21時には大型の台風となった。このため、非常に強い風を観測したところがあった。 (日最大風速) 敦賀 20.4m/s(南東)17時49分 三国 16.0m/s(南南東)20時00分 (日最大瞬間風速) 敦賀 30.7m/s(南東)18時26分 小浜 30.6m/s(東南東)17時01分
2015 (平27) 9.8～9	台風 18号	(1)公共土木施設被害 4,308千円	台風第18号が、東海地方から北陸地方を北上し日本海に進んだため、大雨となったところがあった。 (日最大1時間降水量(9日)) 美浜 26.5 [㎜] 、敦賀 22.0 [㎜] (日降水量(9日)) 今庄 100.0 [㎜] 、敦賀 85.0 [㎜]

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2015 (平27) 10.1～2	大雨	(1) 公共土木施設被害 13,142 千円	前線を伴った低気圧が急速に発達しながら北陸地方を通過したため、大雨となったところがあった。 (日最大1時間降水量(2日)) 今庄 57.5 ^{mm} 、敦賀 48.0 ^{mm} (日降水量(2日)) 今庄 83.0 ^{mm} 、美山 73.0 ^{mm} (日最大風速) 小浜 14.6m/s(北西)2日01時21分 敦賀 14.4m/s(南南東)1日16時38分 (日最大瞬間風速) 敦賀 23.6m/s(西北西)2日01時02分 小浜 23.5m/s(北北西)2日01時09分
2015 (平27) 12.4	強風	(1) 公共土木施設被害 429,531 千円	日本付近は冬型の気圧配置となり、福井県では、大気の状態が不安定となった。 (日最大風速) 越廼 13.1m/s(西)4日05時02分 敦賀 12.1m/s(西)4日05時30分 (日最大瞬間風速) 三国 28.1m/s(西)4日00時53分 越廼 23.6m/s(西南西)4日01時24分
2015 (平27) 12.11	強風	(1) 人的被害 重傷 1人	本州上を前線を伴った低気圧が東北東進したため、大雨や強風となった。また、大気の状態が非常に不安定となり、竜巻等の激しい突風が発生しやすい状況となった。 (日最大1時間降水量(11日)) 武生 24.0 ^{mm} 、美浜 22.5 ^{mm} (日降水量(11日)) 大飯 92.5 ^{mm} 、小浜 86.0 ^{mm} (日最大風速) 春江 15.3m/s(北)11日12時26分 敦賀 15.3m/s(北北西)11日14時13分 (日最大瞬間風速) 小浜 24.7m/s(北北西)11日13時27分 敦賀 22.9m/s(北北西)11日14時04分
2015 (平27) 12.17 ～ 2016 (平28) 2.29	大雪	(1) 人的被害 軽傷 4人	12月は低気圧の通過や冬型の気圧配置の影響で曇りや雨の日が多く、1月24日から25日にかけて嶺北中心に、2月中頃は嶺南中心に一時的に冬型の気圧配置が強まって大雪となった。 (日降雪量最大) 福井 36センチ1月24日 敦賀 21センチ2月16日 九頭竜 35センチ1月19日 大野 34センチ1月24日 武生 26センチ1月25日 今庄 50センチ1月25日 小浜 15センチ2月16日 (最深積雪最大値) 福井 47センチ1月26日 敦賀 21センチ2月16日 九頭竜 87センチ1月25日 大野 57センチ1月25日 武生 39センチ1月25日 今庄 59センチ1月25日 小浜 27センチ2月16日

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2016 (平28) 4.17	暴風	(1)人的被害 軽傷 2人 (2)その他被害 15,075千円	華中で前線上に発生した低気圧が、発達しながら北東に進み、17日未明には朝鮮半島に、その後も発達しながら日本海を北東に進み17日夜には北海道西海上に進んだ。この低気圧の影響で福井県内では、16日夜から風が強まり、17日昼過ぎにかけて非常に強い風を観測した所があった。 (日最大風速(17日)) 三国 21.2m/s(南)10時35分 敦賀 20.0m/s(南南東)06時41分 (日最大瞬間風速(17日)) 敦賀 32.9m/s(南南東)08時08分 三国 30.1m/s(南)11時13分
2016 (平28) 5.3	暴風	(1)人的被害 重傷 2人 軽傷 3人 (2)住家被害 一部破損 10棟 (3)非住家被害 その他 3棟 (4)農林水産業施設被害 15,000千円 (5)その他の公共施設被害 854千円 (6)その他被害 6,800千円	黄河下流で発生した低気圧は、ボツ海から黄海付近を通過し、中国東北区を進んだ3日昼頃にかけて急速に発達し、その後は東北東進した。この低気圧からのびる寒冷前線が、3日夜から4日未明にかけて北陸地方を通過した影響で、福井県内では、3日未明から風が強まり、夜遅くかけて非常に強い風を観測した所があった。 (日最大風速(3日)) 敦賀 22.9m/s(南南東)20時15分 三国 21.7m/s(南南東)22時05分 (日最大瞬間風速(3日)) 敦賀 35.8m/s(南東)11時17分 三国 31.6m/s(南)21時57分
2016 (平28) 6.25	大雨	(1)農林水産業施設被害 9,757千円	前線を伴った低気圧が日本海を北東進した影響で、嶺北を中心に大雨となり強い雨を観測した所があった。 (日最大1時間降水量(26日)) 三国 42.0 ^{mm} 5時33分
2016 (平28) 9.20	台風 16号	(1)住家被害 床上浸水 1棟 一部破損 1棟 (2)公共土木施設被害 224,135千円 (3)その他被害 1,136千円 (4)災害対策本部設置市町村 敦賀市、池田町	台風16号が、太平洋沿岸を北東進した影響で、福井県では、19日から20日にかけて雨が降り、強い雨を観測した所があった。 (日最大1時間降水量(20日)) 敦賀 33.5 ^{mm} 14時46分 九頭竜 28.5 ^{mm} 16時11分 小浜 28.5 ^{mm} 13時24分 (日降水量(20日)) 九頭竜 117.0 ^{mm} 、大飯 109.5 ^{mm}
2016 (平28) 10.5	台風 18号	(1)人的被害 軽傷 2人 (2)その他被害 300千円	台風18号が、対馬海峡から山陰沖を通過し能登半島沖に進んだ影響で、福井県では、5日昼前から風が強まり、5日夜遅くにかけて強い風を観測した所があった。 (日最大風速(5日)) 敦賀 16.0m/s(南南東)16時10分 三国 18.4m/s(南)19時31分 (日最大瞬間風速) 三国 26.4m/s(南)19時25分 敦賀 25.3m/s(南)15時52分
2017 (平29) 8.7~8	台風5号	(1)住家被害 全壊 1棟 床下浸水 3棟 (2)非住家被害 その他 1棟 (3)その他被害 道路 3箇所 (4)その他被害 河川 24箇所	台風第5号は、四国の南を通り、7日15時半頃に暴風域を伴ったまま和歌山県北部に上陸した。上陸後は近畿地方を北東に進み8日には石川県白山市付近を通過した影響で、福井県では、7日から8日にかけて断続

		(5)その他被害 港湾 2箇所 (6)その他被害 砂防 5箇所 (7)公共土木施設被害 393,080千円 (8)災害対策本部設置市町村 小浜市	的に強い雨が降った。 8日は激しい雨を観測した所もあり、7日00時から8日24時にかけての総降水量は、奥越、嶺南を中心に200mmを超えた所があった。 (日最大1時間降水量(8日)) 美山 41.0mm 06時45分 小浜 35.0mm 00時55分 (7日～8日の期間降水量) 九頭竜 223.5mm、敦賀 207.5mm
2017 (平29) 8.12	大雨	(1)住家被害 床下浸水 1棟 (2)非住家被害 その他 1棟 (3)その他被害 道路 1箇所 (4)公共土木施設被害 20,496千円 (5)災害対策本部設置市町村 高浜町	気圧の谷や湿った空気の影響で、嶺南では激しい雨を観測した所があった。 (日最大1時間降水量(12日)) 小浜 45.5mm 04時14分
2017 (平29) 8.25	大雨	(1)住家被害 床下浸水 5棟 (2)非住家被害 その他 1棟 (3)その他被害 砂防 1箇所 (4)公共土木施設被害 16,588千円 (5)災害対策本部設置市町村 永平寺町	低気圧から伸びる前線が北陸地方を南下したため、雷を伴って激しい雨の降った所があった。 (日最大1時間降水量(25日)) 勝山 42.0mm 10時03分 大野 39.0mm 11時00分 福井 34.5mm 09時45分 春江 34.0mm 09時27分

<p>2017 (平29) 9.18</p>	<p>台風18号</p>	<p>(1)住家被害 床下浸水 5棟 (2)非住家被害 その他 1棟 (3)その他被害 港湾 1箇所 (4)その他被害 砂防 1箇所 (5)電気被害 31戸 (4)公共土木施設被害 275,419千円</p>	<p>台風第18号が、兵庫県明石市付近に上陸した後、17日夜遅くから18日未明にかけて福井県を通過した影響で、福井県では激しい雨の降った所があった。 また、台風が最も接近した17日夜遅くから風が強まり、18日未明に強い風を観測した所があった。 (日最大1時間降水量(18日)) 越廼 43.5mm 00時12分 (日最大1時間降水量(17日)) 大飯 38.0mm 23時34分 三国 37.5mm 23時16分 九頭竜 35.0mm 23時25分 (17日～18日の期間降水量) 大飯 114.5mm、小浜 112.5mm (日最大風速(18日)) 敦賀 17.2m/s(北西)00時32分 小浜 16.8m/s(北西)00時49分 (日最大瞬間風速(18日)) 敦賀 26.2m/s(北西)00時24分 小浜 30.6m/s(北北西)00時40分</p>
<p>2017 (平29) 10.22～23</p>	<p>台風21号</p>	<p>(1)人的被害 重傷 1人 軽傷 4人 (2)住家被害 全壊 1棟 半壊 6棟 一部破損 609棟 床上浸水 5棟 床下浸水 57棟 (3)非住家被害 公共施設 9棟 その他 87棟 (4)その他被害 学校 20箇所 (5)その他被害 病院 1箇所 (6)その他被害 道路 127箇所 (7)その他被害 橋りょう 1箇所 (8)その他被害 河川 89箇所 (9)その他被害 港湾 4箇所 (10)その他被害 砂防 31箇所 (11)その他被害 清掃施設 2箇所 (12)その他被害 崖くずれ 4箇所 (13)その他被害 被害船舶 9隻 (14)電話被害 4回線 (15)電気被害 7,545戸 (16)公共文教施設被害 15,912千円 (17)農林水産業施設被害 479,172千円 (18)公共土木施設被害 4,124,326千円 (19)その他の公共施設被害 129,904千円 (20)その他被害 592,067千円 (21)災害対策本部設置市町村 敦賀市、小浜市、鯖江市、越前市、 永平寺町、越前町、高浜町、 おおい町</p>	<p>台風第21号が、静岡県御前崎市付近に上陸した後、東海地方及び関東地方を北東に進んだ影響で、福井県では激しい雨を観測した所があった。 台風が最も接近した22日夜遅くから23日未明にかけて、非常に強い風を観測した所があった。 (日最大1時間降水量(22日)) 大飯 38.0mm 22時33分 越廼 34.5mm 23時21分 (日最大1時間降水量(23日)) 大飯 31.0mm 00時01分 (22日～23日の期間降水量) 大飯 304.0mm、小浜 112.5mm 今庄 253.0mm、 (日最大風速(23日)) 春江 23.1m/s(北)01時47分 今庄 22.5m/s(北)02時43分 小浜 20.3m/s(北)01時04分 (日最大瞬間風速(23日)) 春江 33.4m/s(北)01時44分 今庄 36.8m/s(北)02時37分 小浜 38.8m/s(北)02時07分</p>

第2章 平成29年の天候概況

1 天候の特徴

◇ 年（1月～12月）の概況

1月～2月は、暖冬・少雪だが、冬型が強まる時期があった。1月中旬から下旬前半にかけてと、2月上旬後半から中旬前半にかけては一時的に冬型の気圧配置が強まった。2月10日には小浜で81センチの積雪差日合計を観測し、これまでの年の極値を更新した。

3月～5月は、高温・かなりの少雨・かなりの多照。天気は概ね数日の周期で変化したが、高気圧に覆われて晴れた日が多い時期があった。日本の北の低気圧に向かって暖かい空気が流れ込みやすく、また、5月は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。

6月～8月は、かなり遅い梅雨入り・遅い梅雨明け、かなりの多雨・多照。6月は梅雨前線が日本の南海上に停滞して高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、7月は日本海に停滞した活動の活発な梅雨前線、8月は台風第5号の通過や湿った空気の影響で、ともに大雨となった日があった。

北陸地方の梅雨入りは6月25日ごろで平年よりかなり遅く（平年は6月12日ごろ）、梅雨明けは8月2日ごろで平年より遅かった（平年は7月24日ごろ）。

9月～11月は、低温・多雨で、10月はかなりの多雨・かなりの寡照。10月に台風や前線、低気圧、11月中旬以降は気圧の谷や寒気の影響で降水量は多く、9月上旬や11月は寒気の影響で気温は低かった。10月下旬は2つの台風（第21号・第22号）が接近したため降水量が多くなった。また、11月の後半は強い寒気が流れ込んだため平年より早い初雪となった。

12月は、冬型の気圧配置の日が多く、曇りや雨または雪の日が多かった。一時的に冬型の気圧配置が強まり、大雪となった所があった。

官署	平均気温			降水量			日照時間		
	本年 (℃)	平年差 (℃)	階級区分	本年 (mm)	平年比 (%)	階級区分	本年 (h)	平年比 (%)	階級区分
福井	14.6	0.1	平年並	2506.5	112	多い	1763.5	109	多い
敦賀	15.4	0.1	平年並	2760.0	129	かなり 多い	1735.6	111	かなり 多い

※平年差（比）は、平年値（1981年～2010年の30年平均値）から求めている。

◇ 台風

台風の年間発生数は平年並の27個（平年値25.6個）となり、日本への接近数は8個（平年値11.4個）、上陸数は平年を上回る4個（平年値2.7個）。北陸地方への接近数は4個（平年値2.5個）となった。

【台風発生数・上陸数】

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	平年値
発生				1		1	8	5	4	3	3	2	27	25.6
上陸（注1）							1	1	1	1			4	2.7
北陸地方に 接近した台風							1	1	1	1			4	2.5

（注1）「上陸」は台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を指す。

※台風の中心が新潟県、富山県、石川県、福井県のいずれかの気象官署から300km以内に入った場合を「北陸地方に接近した台風」としている。

・接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

2 月別気象概況

◇ 2017年（平成29年）月別気象概況

1月

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、冬型の気圧配置や気圧の谷、前線の影響で曇りや雨の日も多くなった。

月平均気温は、大野、今庄で平年並、その他の地点では平年より高くなった。

月降水量は、勝山、美浜、大飯で平年より多く、三国で平年よりかなり少なく、福井、越廼で平年より少なく、その他の地点では平年並となった。

月間日照時間は、勝山で平年より少なく、その他の地点では平年より多いか、かなり多くなった。

2月

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、冬型の気圧配置や気圧の谷、前線の影響で曇りや雪の日も多く、9日から12日にかけて強い冬型の気圧配置となったため、嶺南を中心に大雪となった。

月平均気温は、すべての地点で平年並となった。

月降水量は、三国で平年より少なく、九頭竜で平年並、その他の地点では平年より多いか、かなり多くなった。

月間日照時間は、三国、勝山、越廼、小浜で平年より少なく、その他の地点では平年並となった。

3月

前半は、高気圧に覆われて晴れた日もあったが、低気圧や冬型の気圧配置の影響で、雨や雪の降った日が多く、後半は高気圧と低気圧が交互に通過して天気は数日の周期で変わり、高気圧に覆われて晴れた日が多くなった。

月平均気温は、大野、美浜で平年より低く、その他の地点では平年並となった。

月降水量は、美浜、大飯で平年並、その他の地点では平年より少なくなった。

月間日照時間は、すべての地点で平年より多くなった。

4月

低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は概ね数日の周期で変わった。中旬は、寒気や気圧の谷の影響で雨の降った日が多くなり、中旬の終わりには日本海で急速に発達した低気圧の影響で大雨となった所もあった。

月平均気温は、勝山、大野で平年並、その他の地点では平年より高いか、かなり高くなった。

月降水量は、美浜で平年より少なく、勝山、大野、福井、越廼で平年より多く、その他の地点では平年並となった。

月間日照時間は、勝山、大野、今庄、小浜で平年並、その他の地点では平年より多くなった。

5月

天気は概ね数日の周期で変化し、高気圧に覆われて晴れた日が多くなったが、低気圧や気圧の谷の影響で曇りや雨の降った日もあった。

月平均気温は、勝山、大野、今庄、小浜で平年より高く、その他の地点では平年よりかなり高くなった。

月降水量は、勝山、大野で平年より少なく、その他の地点では平年よりかなり少なくなった。

月間日照時間は、福井、越廼、敦賀、美浜で平年よりかなり多く、その他の地点で平年より多くなった。

6月

はじめと終わりは前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多くなったが、高気圧に覆われて晴れた日もあった。

月平均気温は、勝山、大野で平年よりかなり低く、その他の地点では平年より低くなった。

月降水量は、勝山、大野、福井、敦賀、美浜で平年より少なく、その他の地点では平年よりかなり少なくなった。

月間日照時間は、すべての地点で平年よりかなり多くなった。

7月

高気圧に覆われて晴れた日が多くあったが、梅雨前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日があり、大雨となった所もあった。

月平均気温は、勝山、大野、今庄で平年より高く、その他の地点では平年よりかなり高くなった。

月降水量は、越廼で平年より少なく、その他の地点では平年並か平年より多くなった。

月間日照時間は、大野、敦賀、美浜で平年より多く、その他の地点では平年並となった。

8月

高気圧に覆われて晴れた日が多くあったが、台風第5号の通過や前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、上旬と下旬は大雨となった日もあった。

月平均気温は、すべての地点で平年並となった。

月降水量は、三国で平年並、その他の地点では平年より多いか、かなり多くなった。

月間日照時間は、福井、勝山、大野、今庄で平年より少なく、その他の地点では平年並となった。

9月

低気圧と高気圧が交互に通過して天気は概ね数日の周期で変わり、晴れた日が多くなったが、前線や低気圧及び台風第18号の影響で大雨となった日もあった。

月平均気温は、三国、美浜で平年並、その他の地点では平年より低くなった。

月降水量は、勝山、越廼、美浜で平年より多く、その他の地点では平年並となった。

月間日照時間は、三国、越廼、美浜、小浜で平年より多く、その他の地点では平年よりかなり多くなった。

10月

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、前線や寒気の影響で曇りや雨の日が多く、特に22日から23日は台風第21号の最接近の影響で、暴風を伴い大雨となった。

月平均気温は、越廼で平年より低く、その他の地点では平年並となった。

月降水量は、すべての地点でかなり多くなった。

月間日照時間は、すべての地点で平年よりかなり少なくなった。

11月

上旬は移動性高気圧に覆われて晴れた日が多く、期間中頃から気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨の日が多く、また、大雨となった日もあった。

月平均気温は、すべての地点で平年より低くなった。

月降水量は、美浜で平年よりかなり多く、大飯で平年より少なく、三国、今庄、小浜で平年並、その他の地点では平年より多くなった。

月間日照時間は、三国、今庄、美浜で平年よりかなり多く、その他の地点では平年より多くなった。

12月

冬型の気圧配置や気圧の谷、前線の影響で雨や雪の日が多くなったが、高気圧に覆われて晴れた日もあった。

月平均気温は、大野、今庄、美浜で平年よりかなり低く、その他の地点では平年より低くなった。

月降水量は、小浜、大飯で平年より少なく、その他の地点では平年より多くなった。

月間日照時間は、三国、美浜、小浜で平年並、その他の地点では平年より少なくなった。

第3章 防災訓練の実施状況

I 総合防災訓練

平成29年度福井県総合防災訓練を次のとおり実施した。

1 目的

災害対策基本法および福井県地域防災計画に基づき、防災関係機関が協力して迅速・的確に応急対策が実施できるよう、訓練会場の特色を活かした実践的な防災訓練を実施する。また、併せて住民の防災に対する意識の高揚を図る。

今年度は南越前町を主会場とし、大雨による災害や地震等の複合災害に対応できる広域的な防災体制の確立を図る。

2 日 時 平成29年8月27日（日） 8時00分～12時00分

3 場 所 (1) 主 会 場 日野川河川敷（南越前町）
(2) 住民避難訓練 【南越前町】 南条地区、湯尾地区
【越前市】 王子保地区

4 主 催 福井県、南越前町、越前市

5 訓練参加機関

(1) 国の行政機関

中部管区警察局福井県情報通信部、北陸総合通信局、敦賀海上保安部、東京管区気象台福井地方气象台、近畿地方整備局、近畿地方整備局福井河川国道事務所、国土地理院北陸地方測量部

(2) 自衛隊

自衛隊福井地方協力本部、陸上自衛隊第14普通科連隊、陸上自衛隊第10飛行隊、陸上自衛隊第372施設中隊、海上自衛隊舞鶴地方総監部、海上自衛隊第23航空隊、航空自衛隊第6航空団、航空自衛隊小松救難隊

(3) 警察関係

福井県警察本部、越前警察署

(4) 応援県

石川県、富山県、岐阜県、奈良県

(5) 消防関係

福井県消防長会、南越消防組合消防本部、福井市消防局、敦賀美方消防組合消防本部、若狭消防組合消防本部、大野市消防本部、勝山市消防本部、鯖江・丹生消防組合消防本部、嶺北消防組合消防本部、永平寺町消防本部、南越消防組合南越前消防団、南越消防組合越前市消防団、自主防災組織、(公社)福井県消防協会

(6) 医療関係

(一社)福井県医師会、(一社)武生医師会、(一社)鯖江市医師会、(一社)福井県歯科医師会、(公社)福井県看護協会、日本赤十字社福井県支部、福井県赤十字血液センター、福井県赤十字救護奉仕団、南越前町赤十字奉仕団、福井県無線赤十字奉仕団、赤十字飛行隊福井支隊、福井県立病院、福井赤十字病院、福井県済生会病院、福井大学医学部付属病院、福井勝山総合病院、公立丹南病院、市立敦賀病院、(独)国立病院機構敦賀医療センター、杉田玄白記念公立小浜病院、福井総合病院

(7) 交通運輸関係

福井県倉庫協会、(一社)福井県トラック協会、日本通運(株)福井支店、(一社)日本自動車連盟、中日本高速道路(株)福井保全サービスセンター、中日本高速道路(株)敦賀保全サービスセンター、中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)、西日本高速道路(株)関西支社

(8) ライフライン関係

西日本電信電話(株)福井支店、(株)NTTフィールドテクノ北陸支店 福井営業所、福井FSC、(公財)日本公衆電話会、(株)NTTドコモ北陸支社、ドコモCS北陸(株)、KDDI(株)北陸総支社、ソフトバンク(株)、北陸電力(株)福井支店、(一財)北陸電気保安協会福井支店、(一社)福井県電業協会、南条管工事協同組合、(一社)福井県建設業協会、(一社)丹南建設開発機構、(一社)福井県LPガス協会、福井県高圧ガス地域防災協議会、(一社)日本コミュニティーガス協会近畿支部福井県防災会、関西電力(株)原子力事業本部、日本原子力発電(株)、(独)日本原子力研究開発機構

(9) 各種団体

日本郵便(株)北陸支社、北陸地方非常通信協議会、福井県災害ボランティアセンター連絡会、南越前町社会福祉協議会、福井県石油業協同組合、(株)福井銀行、NHK福井放送局、(特非)たんなん夢レディオ、特別養護老人ホームほのぼの苑、大塚製薬(株)、(株)道端組、福井県行政書士会、(公社)福井県国際交流協会、セントラルヘリコプターサービス(株)、(有)エイチ・エス・リンク、(株)日立国際電気、藤井防災エネルギー(株)、南越前町防犯隊、福井県防災士会

(10) 地元地区関係(南越前町住民、越前市住民)

(11) 福井県

(12) 南越前町

(13) 越前市

6 主な訓練項目

(1) 実働機関による救出救助訓練

①自衛隊、警察、消防、海保等の実働機関が連携した負傷者搜索救助訓練

- ・現地合同調整所を設置し、実働機関が連携して以下の訓練を実施。

地震により崩落したトンネル内からの救出訓練（自衛隊、県警、消防、DMAT）

（会場内に設置した模擬トンネルを使用した救出救助訓練）

浸水した建物および車両からの救助訓練（自衛隊、消防、DMAT）

- ・応急橋梁の架設訓練（自衛隊）
- ・土砂に押しつぶされた家屋からの救助訓練（消防、DMAT）
- ・中高層建物や河川内に取り残された要救助者の救出訓練

（消防、県防災ヘリ、県警ヘリ、海保ヘリ）

②ヘリによる孤立地区からの急病者等搬送、救援物資供給訓練

- ・孤立地区における臨時ヘリポート設置訓練【越前市 武生第六中学校】
越前市消防団および越前市職員による臨時ヘリポートの設置
- ・ヘリコプターによる孤立地区への緊急物資輸送訓練
陸上自衛隊ヘリ《広域物流拠点（主会場）→孤立地区（武生第六中学校）》
- ・ヘリコプターによる孤立地区からの急病者搬送訓練
航空自衛隊ヘリ《孤立地区（武生第六中学校）→災害拠点病院（主会場）》

(2) 住民避難訓練等

①大雨および地震からの住民避難訓練等

- ・自衛隊の高機動車および町の手配した福祉車両による住民避難支援訓練
- ・河川の増水および土砂災害、地震による住民避難訓練（約2,000人）

②関係機関と連携した避難所運営訓練

- ・県防災士会と住民が連携した避難所運営訓練（南越前町、県防災士会）
- ・県行政書士会と連携した罹災証明書の発行訓練（南越前町、県行政書士会）
- ・県国際交流協会による外国人避難者の支援訓練（南越前町、県国際交流協会）
- ・炊き出し訓練（自衛隊、町赤十字奉仕団）

③避難者の健康支援活動および福祉避難所開設・運営訓練【ほのぼの苑】

- ・福祉施設への避難情報の伝達、要配慮者への健康支援、南越前町による福祉避難所の開設訓練

④南越前町災害対策本部への市町災害対応支援班派遣訓練（県、南越前町）

⑤広域物流拠点からの救援物資輸送訓練（県、トラック協会、倉庫協会）

- ・県の広域物流拠点（サンドーム福井）に集められた救援物資を町の物資輸送拠点に配送
その後、各避難所に配送

II 過去5年間の総合防災訓練等の実施状況

種別	年度	25	26	27	28	29
総合防災訓練	日時	平成25年8月25日(日)	平成26年11月11日(土)	平成27年8月30日(日)	平成28年10月30日(日)	平成29年8月27日(日)
	場所	鯖江中学校、越前漁港厨地区、鯖江市内、越前町沿岸部、南越前町沿岸部	弁天緑地、勝山市一円、大野市保健センター	小浜漁港、小浜市一円、県立大学小浜キャンパス	北潟湖畔公園	南越前町日野川河川敷
	主催	福井県、鯖江市、越前町、南越前町	福井県、勝山市	福井県、小浜市	福井県、あわら市	福井県、南越前町、越前市
	参加機関	105	84	85	93	107
	訓練種目	53	39	48	44	41
	想定	地震と津波および集中豪雨による災害	大雨と地震による災害	大雨による土砂災害および津波災害	大雨および地震・津波による災害	大雨と地震による災害
参加人員	3,900	4,500	4,100	5,300	3,000	
石油コンビナート等総合防災訓練	日時			平成27年8月9日(日)		
	場所			福井臨海地区石油コンビナート等特別防災区域およびその周辺		
	主催			福井県石油コンビナート等防災本部		
	参加機関	未開催	未開催	30	未開催	未開催
	訓練種目			28		
	想定			地震による原油漏えい、防油堤一部破損および余震によるタンク		
参加人員			451			
原子力防災訓練(総合訓練)	日時	平成25年6月16日(日)	平成26年8月31日(日)	平成27年10月16日(金) ※平成27年度は個別訓練	平成28年8月27日(土)、28日(日)	
	訓練対象施設	関西電力(株)美浜発電所3号機	関西電力(株)高浜発電所3号機	関西電力(株)高浜発電所	関西電力(株)高浜発電所、大飯発電所	
	主催	福井県、美浜町、敦賀市	福井県、高浜町、小浜市、おおい町、若狭町	福井県	福井県	
	参加機関	120	120	①最初動対応訓練 86機関、442名参加	高浜:150 大飯:100	未開催
	訓練種目	12	12	②安定ヨウ素剤緊急時配布訓練 13機関、84名参加	13	
	想定	全交流電源喪失および原子炉冷却機能の喪失により、全面緊急事態に至る	全交流電源喪失および原子炉冷却機能の喪失により、全面緊急事態に至り、放射性物質放出	③スクリーニング・除染訓練 6機関、71名参加	全交流電源喪失および原子炉冷却機能の喪失により、全面緊急事態に至り、放射性物質放出	
参加人員	2,500	4,100	④緊急時モニタリング訓練 6機関、84名参加	5,546		

Ⅲ 市町別自主防災組織の結成状況

平成30年4月1日現在

	管内世帯数 (A)	自主防災組織 の組織数	隊員数	組織されている 地域の世帯数 (B)	組織率 (カバー率) (B/A)
福 井 市	101,653	1,144	98,074	98,074	96.5%
敦 賀 市	28,530	89	2,000	25,641	89.9%
小 浜 市	11,979	100	1,150	7,533	62.9%
大 野 市	10,981	206	6,105	10,981	100.0%
勝 山 市	7,361	114	1,711	6,927	94.1%
鯖 江 市	24,100	153	7,256	24,037	99.7%
あ わ ら 市	9,784	105	4,243	9,027	92.3%
越 前 市	30,279	239	9,520	30,031	99.2%
坂 井 市	31,400	304	4,227	22,178	70.6%
永 平 寺 町	6,236	89	3,621	6,236	100.0%
池 田 町	937	21	140	642	68.5%
南 越 前 町	3,480	64	809	3,070	88.2%
越 前 町	7,277	60	1,462	5,360	73.7%
美 浜 町	2,633	22	6,984	2,633	100.0%
高 浜 町	4,247	32	4,046	2,631	61.9%
お お い 町	3,192	29	1,654	1,763	55.2%
若 狭 町	4,998	93	1,325	3,941	78.9%
合計・ 平均	289,067	2,864	154,327	260,705	90.2%

管内世帯数：住民基本台帳法に基づく人口、世帯数調べ（平成30年4月1日現在）

隊 員 数：自主防災組織の組織編成において隊員又は班員等に位置づけられている実働隊員の総数
（平成30年4月1日現在）

第4章 平成29年度防災行政無線利用状況

1 無線局の現況

防災行政無線局等一覧（平成30年4月1日現在）

〔固定系〕

区分	局数		設置場所	
	多重系	衛星系		
統制局	1	1	県庁	
中継局	6		越知山（越前町大谷寺） 久須夜ヶ岳（小浜市堅海） 村国山（越前市村国） 八ツ杉（越前市別印） 岳山（美浜町早瀬） 青葉山（高浜町中山）	
支部局	8	7	8土木（福井、三国、奥越、勝山 [※] 、丹南、鯖江丹生、敦賀、小浜） ※勝山土木は衛星系を持たない	
合庁局	2	2	2合同庁舎（福井、丹生）	
ダム管等局	11		原子力センター 龍ヶ鼻ダム管 [※] 、龍ヶ鼻ダム下流連絡所 [※] 、永平寺堰堤 [※] 笹生川ダム管、笹生川堰堤 [※] 、浄土寺川堰堤 [※] 広野ダム管、広野堰堤 [※] 、榎谷堰堤 [※] 大津呂堰堤 [※] ※水防無線局を含む	
小計	28	10		
端末局	県出先機関		14	健康福祉センター（福井、坂井、奥越、丹南、丹南（武生）、二州、若狭）、県立病院、福井港湾、敦賀港湾 衛生環境センター、防災航空事務所 [※] 坂井上水、日野川上水 ※福井空港は、併設局（防災航空隊）と共用
	市町		17	9市：福井、敦賀、小浜、大野、勝山、鯖江、あわら、越前、坂井 8町：永平寺、池田、南越前、越前、美浜、高浜、おおい、若狭
	消防本部		7	7消防本部 福井、大野、勝山、永平寺、嶺北、南越、若狭 ※鯖江丹生消防・敦賀美方消防は併設局（鯖江市・敦賀市）と共用
	国・公共機関等		19	福井气象台、鯖江自衛隊、舞鶴自衛隊、敦賀海保、福井海保 日赤福井、福井県医師会、福井火力、福井石油備蓄、原電敦賀 関電美浜・高浜・大飯、ふげん、もんじゅ オフサイトセンター（敦賀、美浜、大飯、高浜）
	小計		57	
衛星車載局		1		
可搬型地球局		3		
合計	28	71		

[移動系]

区 分		局 数	設 置 場 所
陸 上 基 地 局	全 県 移 動 260MHzデジタル	11	県庁統制局 中継局（越知山、久須夜ヶ岳、陣ヶ岡、村国山、岳山、青葉山、 八ツ杉） 土木事務所（勝山、敦賀） 笹生川ダム管
	F W A (18GHz)	1	坂井合同庁舎
	400MHz防災相互	1	防災航空事務所
	計	13	
航 空 局		6	防災航空事務所（可搬用含む）
陸 上 移 動 局	全 県 移 動 局 260MHzデジタル	車載型 47	県庁 3台 土木事務所 42台（福井6台、三国6台、奥越7台、丹南7台、鯖江丹生6台、 敦賀4台、小浜6台） 防災航空事務所、衛星車載局
		半固定型 39	県出先機関8台：健康福祉センター（福井、坂井、奥越、丹南、二州、若狭） 県立病院、防災航空事務所
			9市：福井、敦賀、小浜、大野、勝山、鯖江、あわら、越前、坂井
			8町：永平寺、池田、南越前、越前、美浜、高浜、おおい、若狭
			5消防本部：福井、大野、勝山、永平寺、嶺北、鯖江丹生、南越、敦賀美方、若狭
		5防災関係機関：福井駅、NHK福井、福井放送、福井テレビ、FM福井	
	携帯型 70	県庁 30台、敦賀土木 20台、小浜土木 20台	
	携帯型(他機関) 44	原子力センター 3台、地域医療課 41台	
	小 計 200		
	F W A (18GHz)	1	陣ヶ岡中継局
	消 防 移 動 局	車載型 1	防災航空事務所
携帯型 8		県庁 1台、防災航空事務所 7台	
小 計 9			
防 災 移 動 局	携帯型 5	防災航空事務所、400MHz 防災相互	
計	215		
携 帯 局(へり用)		消防用 2	防災ヘリコプター
航 空 機 局		航行運航用 1	
簡 易 無 線 局		2	簡易画像伝送装置（衛星車載局に搭載）
へ り サ ツ ト 局	携帯基地地球局	固定型 1	県庁局
	ヘリコプター局	へり搭載型 1	防災ヘリコプター
	計	2	
合 計		241	

2 利用状況

(1) 一般通話の利用状況

平成29年中

区 分	一年間の総計	一カ月当たりの 平均使用回数	一局当たりの 月平均使用回数
支 部 ・ 合 庁 局	365,161	30,430	(10局) 3,043
ダ ム 管 等 局	10,513	876	(10局) 88
県 出 先 機 関	8,467	706	(15局) 47
市 町	597	50	(17局) 2.9
消 防 本 部	289	24	(9局) 2.7
国 出 先 機 関	99	8.3	(5局) 1.7
公 共 機 関	126	11	(9局) 1.2
原 子 力 発 電 所 等	75	6.2	(10局) 0.6
合 計	385,327	32,111	(85局) 378

(2) 一斉指令の利用状況

[指令内容別]

平成29年中

区 分	気 象 関 係				事務連絡	テスト	合 計
	警 報	注意報	情 報	計			
指 令 回 数	242	1,443	1,052	2,737	355	76	3,168
前年比 (%)	288	103	152	126	86	113	119

[指令種類別]

平成29年中

区 分	全 県	県出先	市 町	消 防	その他	合 計
指 令 回 数	2,769	78	291	269	12	3,419
前年比 (%)	122	371	100	109	20	118

(3)一斉指令月別通信回数

平成29年中

区分	月												計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
内容	気警報	24	10	0	0	0	64	72	24	18	4	26	242
	象注意報	126	128	149	128	82	169	107	84	84	152	167	1,443
	関情報	111	105	75	58	33	148	160	54	96	64	118	1,052
	係小計	261	243	224	186	115	381	339	162	198	220	311	2,737
別	事務連絡	45	27	40	21	33	30	36	46	19	15	26	355
	テラスト	1	2	31	6	3	1	8	3	8	3	1	76
種類別	計	307	272	295	213	151	412	383	211	225	238	338	3,168
	全県	271	239	244	193	143	337	319	184	206	214	322	2,769
	県出先	1	4	5	9	1	6	13	6	8	8	1	78
	市町	31	28	27	15	5	63	49	20	11	17	14	291
別	消防	27	28	28	16	5	65	36	16	8	17	14	269
	その他	4	0	6	0	1	1	0	0	0	0	0	12
計	334	299	310	233	155	133	472	417	226	233	256	351	3,419

備考)市町と消防へ一括して一斉指令した場合は、市町と消防の種類別において、それぞれ回数を計上

3 多重局通信回数集計表

平成29年中

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
福井支部	2,748	3,128	3,542	3,732	3,288	3,458	2,657	3,063	2,993	3,286	3,279	2,720	37,894
三国支部・坂井合庁	2,984	3,634	4,238	4,424	3,824	4,044	3,157	2,890	3,129	3,546	3,375	3,138	42,383
奥越支部・奥越合庁	2,794	3,106	4,433	4,657	3,636	3,923	3,264	3,456	3,122	3,306	3,139	2,920	41,756
勝山中継局	427	473	607	595	546	633	638	721	558	764	747	770	7,479
丹南支部・南越合庁	4,503	4,870	6,131	6,626	5,703	5,557	4,787	5,003	4,729	5,352	5,182	4,900	63,343
鯖江丹生支部	1,059	1,310	1,511	1,737	1,656	1,670	1,416	1,389	1,467	1,633	1,507	1,340	17,695
敦賀支部・敦賀合庁	3,249	3,733	4,412	4,037	3,892	4,102	3,603	3,564	3,428	3,837	3,416	3,319	44,592
小浜支部・若狭合庁	4,319	4,834	6,248	5,383	4,993	5,053	4,620	4,572	4,401	5,228	4,692	4,602	58,945
福井合庁	2,831	3,124	3,988	3,763	3,729	3,703	2,795	3,080	2,867	3,420	3,000	3,549	39,829
丹生合庁	868	849	1,017	1,112	914	1,035	962	907	798	1,057	845	881	11,245
原子力センタ	292	366	509	359	409	485	363	366	409	410	459	441	4,868
笹生川ダム管	98	150	190	189	121	132	110	146	128	146	97	105	1,612
笹生川堰堤	0	0	0	6	4	14	6	3	7	36	2	0	78
浄土寺川堰堤	0	0	0	9	7	12	6	6	9	7	10	3	69
広野ダム管	136	182	227	243	182	231	249	180	200	147	164	135	2,276
広野堰堤	2	13	7	5	3	13	8	7	4	2	8	4	76
榊谷堰堤	1	8	6	2	3	5	18	13	1	2	9	6	74
龍ヶ鼻ダム管	79	107	90	139	96	126	102	164	94	133	99	119	1,348
永平寺ダム	2	3	3	3	5	11	21	3	0	1	8	0	60
大津呂ダム管	5	0	0	11	0	7	2	4	6	9	4	4	52
計	26,397	29,890	37,139	37,032	33,011	34,214	28,784	29,537	28,350	32,322	30,042	28,956	375,674

※土木事務所(支部局)と合同庁舎が隣接している局については、合算している

4 端末局無線通信回数調

平成29年中

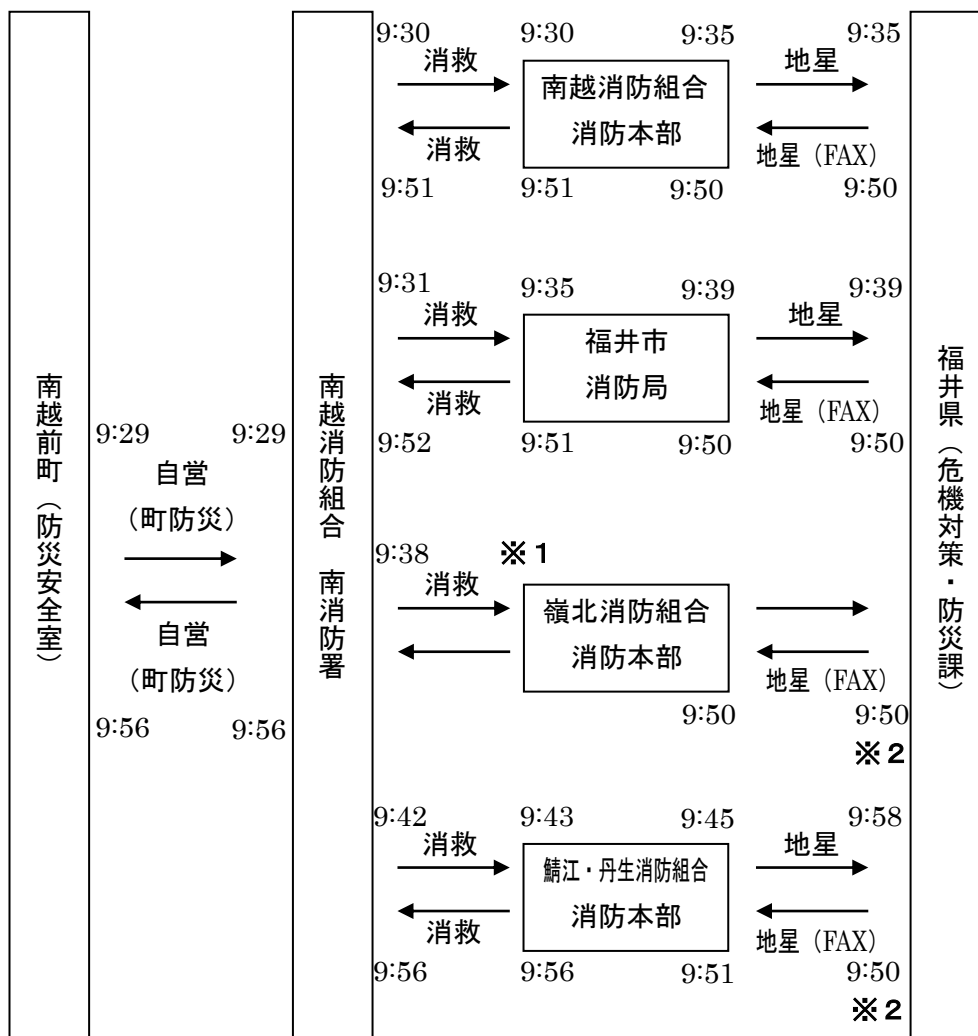
無 線 局	通信回数	無 線 局	通信回数	無 線 局	通信回数
福 井 市	28	福 井 消 防	25	福 井 気 象 台	72
敦 賀 市	67	大 野 消 防	25	鯖 江 自 衛 隊	10
小 浜 市	26	勝 山 消 防	28	舞 鶴 自 衛 隊	4
大 野 市	34	永 平 寺 消 防	60	敦 賀 海 保	6
勝 山 市	39	嶺 北 消 防	36	福 井 海 保	7
鯖 江 市	20	鯖江丹生消防	39	国 出 先 計	99
あ わ ら 市	67	南 越 消 防	27	福 井 駅	12
越 前 市	31	敦賀美方消防	26	N H K 福 井	24
坂 井 市	46	若 狭 消 防	23	福 井 テ レ ビ	15
市 計	358	消 防 計	289	福 井 放 送	15
永 平 寺 町	36	福 井 保 健	208	F M 福 井	17
池 田 町	25	若 狭 保 健	110	日 赤 福 井	4
南 越 前 町	47	二 州 保 健	104	福 井 県 医 師 会	9
越 前 町	35	丹 南 保 健	122	福 井 火 力	10
美 浜 町	23	坂 井 保 健	58	福 井 備 蓄	20
若 狭 町	32	奥 越 保 健	123	公 共 機 関 計	126
お お い 町	22	武 生 保 健	12	原 電 敦 賀	9
高 浜 町	19	衛 生 環 境 セ ン タ ー	2,173	関 電 美 浜	10
町 計	239	県 立 病 院	379	関 電 大 飯	6
市 町 計	597	防 災 航 空 隊	62	関 電 高 浜	6
		福 井 港 湾	591	原 子 力 機 構 ふ げ ん	7
		敦 賀 港 湾	2,934	原 子 力 機 構 も ん じ ゅ	12
		福 井 空 港	31	敦 賀 オ フ サ イ ト	5
		坂 井 上 水	680	美 浜 オ フ サ イ ト	6
		日 野 川 上 水	880	大 飯 オ フ サ イ ト	6
		県 出 先 計	8,467	高 浜 オ フ サ イ ト	8
				原 子 力 発 電 所 等 計	75
				合 計	9,653

※衛星回線による、端末局同士の通信回数はカウントされていない

5 非常無線通信実施状況

- (1) 平成29年度福井県総合防災訓練に伴う非常通信訓練（平成29年8月27日）
 ・南越前町から福井県あて往復信（消防・警察ルートを使用）

【消防ルート】

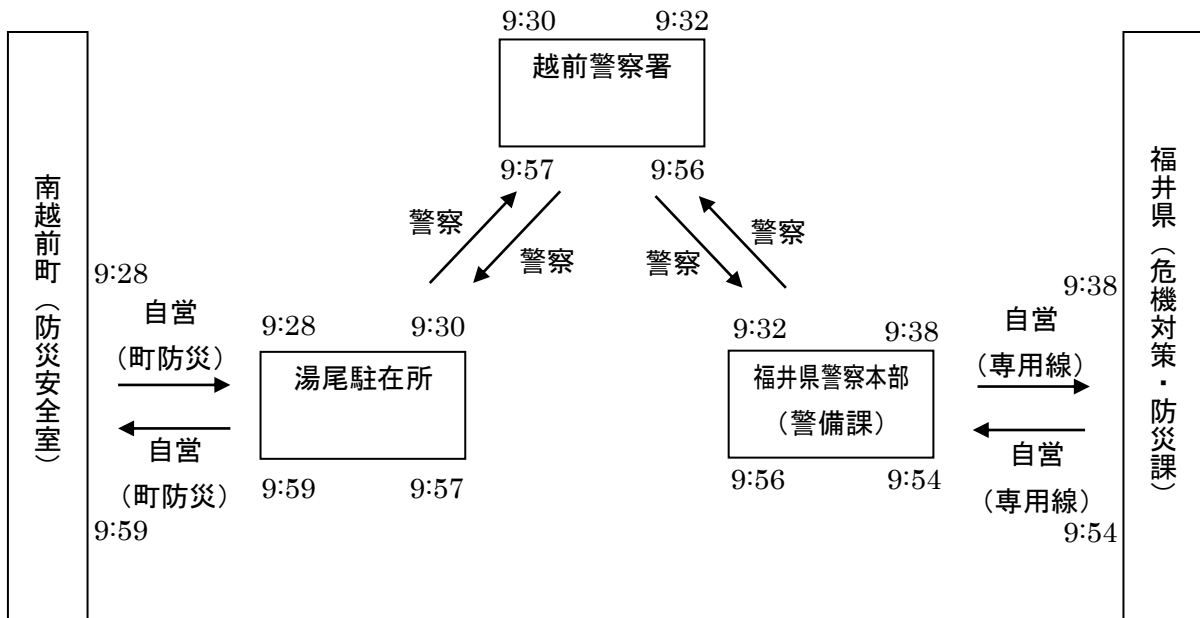


- ※1 南越消防組合南消防署（南越前町湯尾）～嶺北消防組合消防本部（坂井市春江町随応寺）間は、消防救急無線による通信不可であった
- ※2 2カ所からの通信を受信していた9：50の時点で、4消防本部に対し一斉にFAX送信した

(参考)

- ・ 使送：徒歩又は車両等により非常通報文を直接手渡す。
- ・ 警察：警察用通信回線
- ・ 消救：消防・救急無線
- ・ 地星：地域衛星通信ネットワーク
- ・ 県防：県防災行政無線（地上系）
- ・ 自営：上記以外の自営の通信網

【警察ルート】

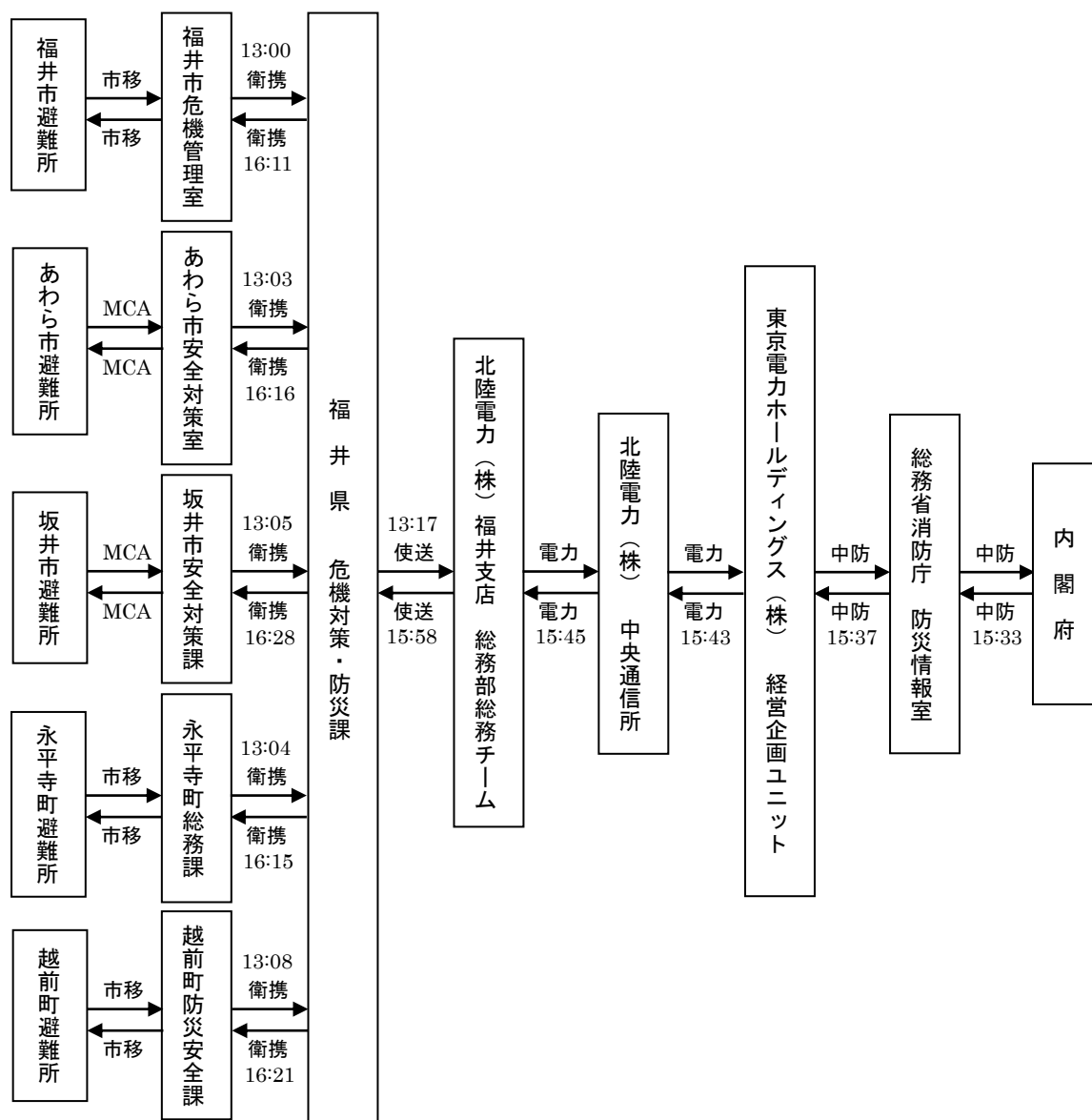


(参考)

- ・ 使送：徒歩又は車両等により非常通報文を直接手渡しする。
- ・ 警察：警察用通信回線
- ・ 消救：消防・救急無線
- ・ 地星：地域衛星通信ネットワーク
- ・ 県防：県防災行政無線（地上系）
- ・ 自営：上記以外の自営の通信網

(2) 平成29年度 第80回全国非常通信訓練 (平成29年11月22日)

・ 嶺北北部地方の各市町から福井県あて、福井県から内閣府へ往復信



(参考)

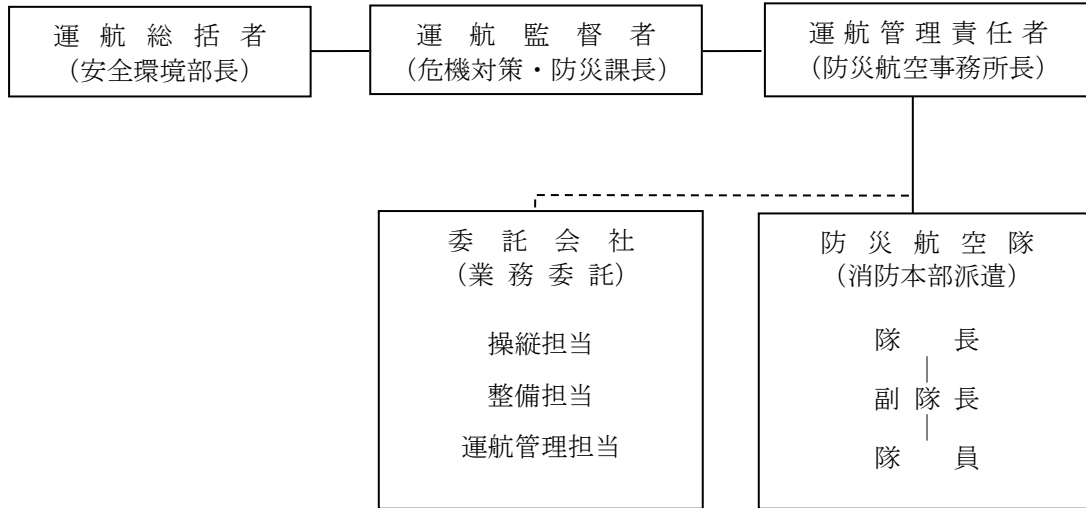
- ・ 使送：徒歩又は車両等により非常通報文を直接手渡りする。
- ・ 警察：警察用通信回線
- ・ 消防：消防・救急無線
- ・ 地星：地域衛星通信ネットワーク
- ・ 県防：県防災行政無線（地上系）
- ・ 中防：中央防災行政無線（地上系）
- ・ 市移：市町村防災行政無線（移動系）
- ・ MCA：MCA無線
- ・ 衛携：衛星携帯電話
- ・ 電力：電気事業者用通信回線

第5章 防災ヘリコプターの運航体制

1 運航基地

福井県防災航空事務所（福井空港内）

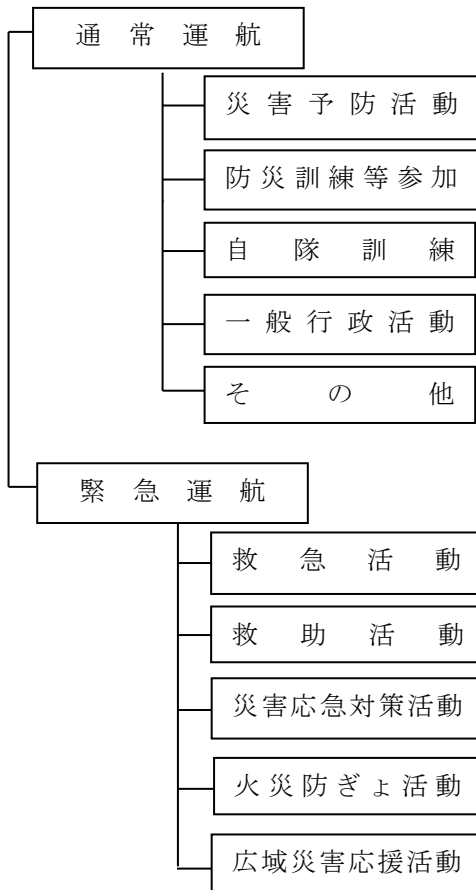
2 組織図



3 運航時間

毎日、午前8時30分から午後5時15分まで
 （ただし、緊急運航の場合は日の出から日没まで）

4 活動業務



機種	川崎BK117C-2
メーカー（製造国）	川崎重工業（日本）
エンジン最大出力	1,384SHP
エンジン基数	2基
搭乗人員	11人
最大全備重量	3,585kg
最大搭載可能重量	1,715kg
航続距離	685km
ホイスト装置	270kg
貨物吊り下げ装置	1,500kg
全長	13.03m
全高	3.95m
最大速度	278km/h
航続時間	約3.5h
着陸方式	スキッド式

第1表 福井県防災ヘリコプター運航実績表（年度別）

平成30年3月31日現在

区分	緊急運航						通常運航						合計
	救急 件数 時間	救助 件数 時間	災害応急 件数 時間	火災防御 件数 時間	広域災害 応援 件数 時間	計 件数 時間	自隊訓練 参加 件数 時間	災害予防活動		一般行政 件数 時間	整備 件数 時間	その他 件数 時間	
								危険箇所 調査	災害予防 広報				
平成20年度	34 30:41	27 19:05			7 7:30	68 57:16	48 39:54		3 11:17	7 6:22	12 9:36	12 14:09	246 260:50
平成21年度	21 7:36	28 23:32		3 1:01	15 31:21	67 63:30	45 34:06		3 10:49	4 3:17	10 10:03	4 4:42	215 253:44
平成22年度	22 9:31	26 19:26			15 21:26	63 50:23	40 30:53		4 10:24	3 4:57	4 7:21	3 2:46	245 269:40
平成23年度	25 10:01	26 10:46	4 4:03	1 3:19	6 11:09	62 39:18	39 29:10		4 16:10	4 5:08	3 5:23	4 3:31	241 250:26
平成24年度	25 13:51	24 18:31		1 0:52	11 13:25	61 46:39	39 27:30		3 11:08	1 1:40	5 7:41	5 2:03	276 279:52
平成25年度	29 15:24	23 19:33	9 13:12		12 13:28	73 61:37	33 21:18		3 11:11	1 1:40	5 5:54	4 4:05	277 290:01
平成26年度	28 12:35	29 20:32			12 12:35	69 45:42	33 26:36	1 1:43	3 11:43	4 2:16	8 8:02	8 5:26	265 247:49
平成27年度	36 19:30	36 26:08			6 9:38	78 55:16	40 25:37			2 2:24	6 4:16	3 2:37	291 264:19
平成28年度	37 20:50	31 30:03			10 14:41	78 65:34	40 29:34			2 3:17	9 10:26	2 1:21	273 262:16
平成29年度	28 15:55	40 29:37		1 1:04	14 14:55	83 61:31	27 20:22			1 1:26	7 5:06	3 1:34	273 249:40

※年間の飛行時間は300時間が限度であるが、耐空検査を年度中に実施しているため、年度合計は300時間を超える場合がある

第6章 衛星車載局の運用体制

1 収 容

福井県消防学校内

2 運用組織図

使用管理者 (危機対策・防災課長)	運用統括責任者：運用総括業務	1名
	通信機器操作員：通信機器類の操作、調整 県庁統制局の操作、調整	2名 1名
	情報収集伝達員：情報の収集、伝達	2名

3 運 用

<非常時の運用>

災害発生もしくは発生する恐れがあるときに、災害の予防、被災後の救助および復旧などの災害対策等に必要な情報の収集・伝達を行う。

<平常時の運用>

業務、事業、イベント等の紹介を行う。

非常時および平常時とも映像情報の伝送を可能としていることにより、より詳細な状況の把握、広報等が可能である。

4 主な仕様

<アンテナ装置>

反射鏡部	オフセットパラボラ	有効開口径 1.8 m
駆動部	電動/手動	
衛星捕捉	GPS等各種センサーおよび送受信装置受信偏波特性比較機による完全自動衛星捕捉が可能	

<送受信装置>

画像系電力増幅部	飽和最大出力	300W以上 (TWT)
個別通信系電力増幅部	飽和最大出力	40W以上 (SSPA)

<端局装置>

実装チャンネル数	個別最大通信回線用	4 CH
	デジタル画像送信用	1 CH
	デジタル画像受信用	1 CH

デジタル画像変復調部 動 画：6 Mbps

<その他端末装置>

全県移動車載型無線装置	260MHz デジタル通信 複信方式
衛星自動車電話	衛星携帯・自動車電話対応
簡易画像伝送装置	50GHz 帯回線構成での画像伝送

保 安 編

第1章 高圧ガス保安

概況

高圧ガスは、エネルギー、原料ガスおよび先端技術分野における特殊材料ガスなどに利用されるなど、その活用分野は広範囲である。

ただし、高圧ガスは有用な反面、高圧状態であること、さらにガスの種類によって可燃性、支燃性および毒性などの化学的な特性があるため、大規模な事故や災害を巻き起こす危険性がある。

このため、高圧ガス保安法等の関係法令に基づく許認可や届出義務などによる危害予防のための規制があるほか、高圧ガス事業者および高圧ガス保安協会による自主的な保安活動を促進するための各種の講習会などを通じた保安指導が実施されている。

国内全体での製造事業所の高圧ガスの事故は、平成23年の1084件をピークに、減少傾向が続いていたが平成28年（947件）には再び増加に転じた。なお、平成23年の事故件数については、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響で、多くの事故報告がなされたことも増加要因の一つと考えられる。東日本大震災の影響を除く平成23年の事故件数は966件であった。なお、事故の内訳で最も多いのが、盗難（平成27年302件、平成28年371件、平成29年247件）である。

一方、高圧ガスのうち一般消費者等への販売にかかる液化石油ガス事故については、全国で平成18年は219件（前年比+114件）と急激な増加をみせ、平成20年にかけて200件を超える高水準を維持していたが、平成29年は185件（前年比+46件）である。

県は、法令遵守はもとより、講習会、保安検査および立入検査などを定期または随時実施し、高圧ガス事業者等に対する指導を行なっている。特に、液化石油ガス事業者に対しては、LPガス設備の点検・調査および改善などの法令遵守ならびに事故防止対策の徹底の指導などを通じ、一般消費者等の安全・安心を推進している。

第1表 市町別高圧ガス関係事業所数

平成30年3月31日現在

事業所 区分	製造事業者				販売事業者(店舗数)										貯蔵所		特定消費事業所		オート ガススタンド	保安機 関	容器檢 査所																	
	第1種		第2種		一般 (LPG 販売を 兼ねて いる者 を含む)	高圧 法の み	液化石油ガス			冷凍 計	液化 石油 ガス 計	一般	液化 石油 ガス	一般	液化 石油 ガス	計	一般	液化 石油 ガス				計																
	液化 石油 ガス	冷凍		一般			液化 石油 ガス	冷凍	計														高圧 法の み	大臣 所管	知事 所管	両方 知事 所管	計	計	計	計	計	計						
		アンモニア 以外	アンモニア																														アンモニア 以外	アンモニア				
市町	11	22	1	10	11	44	29				6	7	74	112	343	539	20	5	25	8	16	24	5	78	5													
福井市																																						
敦賀市																																						
小浜市																																						
大野市																																						
勝山市																																						
鯖江市																																						
あわら市																																						
越前市																																						
坂井市																																						
市計	53	66	1	32	33	152	88			16	592	608	696	848	138	33	0	19	22	241	315	674	1127	70	16	86	31	52	83	10	248	7						
永平寺町																																						
池田町																																						
南越前町																																						
越前町																																						
美浜町																																						
高浜町																																						
おおい町																																						
若狭町																																						
町計	6	6	0	19	19	31	17			6	74	80	97	121	4	1	0	1	2	51	55	64	123	123	9	1	10	5	4	9	1	53	1					
県計	59	72	1	51	52	183	105			22	666	688	793	969	142	34	0	20	24	292	370	738	1250	79	17	96	36	56	92	11	301	8						

第2表 ガスの種類別高圧ガス製造事業所数（冷凍事業所を除く）

平成30年3月31日現在

ガスの種類	第1種製造者（事業所）	第2種製造者（事業所）
空 気	6	37
酸 素	2	13
窒 素	20	40
水 素	—	—
炭 酸 ガ ス	16	8
フ ロ ン ガ ス	1	—
ア ン モ ニ ア	1	—
塩 素	—	—
ア ル ゴ ン	2	4
酸 化 エ チ レ ン	1	—
塩化ビニルモノマー	1	—
ヘ リ ウ ム	—	—
プ ロ ビ レ ン	—	—
エ チ レ ン	—	—
天 然 ガ ス	9	3
L P ガ ス	72	—
計	131	105

- 1 第1種製造者とは、1日の処理能力が100 m³以上（政令で定める「第一種ガス」にあつては300 m³以上）、それ以外のものを第2種製造者という。
- 2 同一事業所で2以上のガスを製造している事業所については、最も処理量が多いガスまたは主たる目的のガスに計上した。

第3表 処理量別・製造形態別製造事業所数（冷凍事業所を除く）

平成30年3月31日現在

事務所数 処理量区分(m ³)	空 液 分	気 化 離	L 工 業 消 費	L ガ ス タ ン ド	L ガ ス 充 填 所	L N G ガ ス タ ン ド	圧 空 充 填 所	C E の 製 造 事 業 所		移 動 式 製 造 事 業 所	そ の 他	合 計
								充 填 所	消 費			
0以上～30未満							7		8		28	43
30～100							12		13		2	27
100～1,000							20		23		8	51
1,000～1万			1			1			15	1	2	20
1万～10万	4		31	2	(※4) 10	1		4		7	3	62
10万～100万	1		11		(※5) 16					1	1	30
100万～1,000万	1									1	1	3
1,000万～1億												
1億以上												
計	6		43	2	26	2	39	4	59	10	45	236

1 同一事業所で2以上の製造形態がある場合は、もともとも処理量の多い製造形態を当該欄に計上した。(ただし、附属冷凍を除く)

2 ※は充填所に併設されているスタンド数

第4表 高圧ガス貯槽数（冷凍事業所を除く）

平成30年3月31日現在

（単位：基）

貯槽の区分 (貯槽能力) ガス名	3トン 以上	10トン 以上	50トン 以上	100トン 以上	計
	10トン 未満	50トン 未満	100トン 未満	1,000トン 未満	
液化酸素	17	10		1	28
液化炭酸ガス	14	1			15
液化アンモニア		6			6
液化水素	1				1
液化塩素	1				1
酸化エチレン		1			1
塩化ビニルモノマー			1	1	2
LPガス	7	104	18		129
液化窒素	47	36		2	85
液化フロン		1			1
液化アルゴン	9	11	3		23
液化天然ガス		24	8		32
計	96	194	30	4	324

第5表 平成29年度高圧ガス製造保安責任者試験実施状況

平成29年11月12日
福井工業大学

種 類	受験者区分	出願者数 (人)	受験者数 (人) (A)	合格者数	
				(人) (B)	合格率 (%) (B/A)
乙種化学	全科目受検者	28	23	2	8.7
	科目免除者	6	6	5	83.3
	計	34	29	7	24.1
丙種化学 (液石丙化)	全科目受検者	39	29	1	3.4
	科目免除者	20	20	17	85.0
	計	59	49	18	36.7
丙種化学 (特別丙化)	全科目受検者	60	57	10	17.5
	科目免除者	20	20	18	90.0
	計	80	77	28	36.4
乙種機械	全科目受検者	22	19	6	31.6
	科目免除者	6	4	3	75.0
	計	28	23	9	39.1
第2種 冷凍機械	全科目受検者	22	21	13	61.9
	科目免除者	8	7	6	85.7
	計	30	28	19	67.9
第3種 冷凍機械	全科目受検者	49	45	13	28.9
	科目免除者	19	18	12	66.7
	計	68	63	25	39.7
計	全科目受検者	220	194	45	23.2
	科目免除者	79	75	61	81.3
	計	299	269	106	39.4

第6表 平成29年度高压ガス販売主任者試験実施状況

平成29年11月12日
福井工業大学

種類	受験者区分	出願者数 (人)	受験者数 (人) (A)	合格者数 (人)	
				(B)	合格率 (%) (B/A)
第1種販売主任者	全科目受験者	18	17	10	58.8
	科目免除者	3	3	3	100.0
	計	21	20	13	65.0
第2種販売主任者	全科目受験者	23	20	4	20.0
	科目免除者	20	20	17	85.0
	計	43	40	21	52.5
計	全科目受験者	41	37	14	37.8
	科目免除者	23	23	20	87.0
	計	64	60	34	56.7

第7表 平成29年度液化石油ガス設備士試験実施状況

平成29年11月12日
福井工業大学

出願者 (人)	受験者 (人) (A)	筆記試験合格者 (人)		技能試験合格者 (人)	
		(B)	筆記試験合格率 (%) (B/A)	(C)	合格率 (%) (C/B)
12	12	8	66.7	8	100.0

第8表 平成29年度高压ガス関係免状交付状況

免許の種類	乙種化学	丙種化学 (液石丙化)	丙種化学 (特別丙化)	乙種機械	第2種 冷凍機械	第3種 冷凍機械	第1種 販売	第2種 販売
交付数 (件)	7 (1)	17 (3)	23 (2)	9	18	24	8	25 (3)

() 書きは再交付・書換で外数

第9表 平成29年度高压ガス関係申請状況

(1) 高压ガス保安法

申請種別		区分	件数	申請種別		区分	件数
製造	新設	一般	1	完 成 更 改 含 む の 検 査	製造	一般	9
		液石	0			液石	14
		冷凍	0			冷凍	0
		計	1			計	23
	変更	一般	9		貯蔵所	一般	3
		液石	15			液石	1
冷凍		0	計	4			
	計	24					
貯蔵所	新設	一般	1	製造保安責任者免状交付		98	
		液石	0	〃	再交付	4	
		計	1	〃	書換	2	
	変更	一般	2	販売主任者免状交付		33	
		液石	2	〃	再交付	2	
		計	4	〃	書換	1	
			保安検査		30		
			合計		227		

(2) 液化石油ガス法

申請種別	件数	
販売事業登録	1	
保安機関認定	1	
保安機関認定更新	11	
一般消費者等増加認定	0	
販売事業者謄本交付	1	
販売事業者認定	0	
貯蔵施設等設置	0	
充てん設備許可	3	
液化石油ガス設備士免状交付	26	
〃	再交付	5
〃	書換	9
合計	57	

第10表 平成29年度高圧ガス事故発生状況

ガスの種類	事故発生日時	事故発生場所	事故の概況	人的被害			原因
				死者	重傷	軽傷	
LNG	H30.1.11	福井市	蒸発器の出口配管溶接部に亀裂が発生しガス漏えいを確認した。	0	0	0	風圧等による損傷
LP	H30.2.13	坂井市工場	工場施設敷地内にある中庭にて液化石油ガス供給管の継手ネジ部からガスが漏えいした。 原因は、落雪もしくは雪の重みにより当該供給管に力がかかり、支持金具が外れ供給管ネジ部が破損し、ガスが漏えいしたものと推定される。	0	0	0	雪による損傷

第2章 火薬類保安

概況

火薬類は、土木、採石、鉱山等の事業に使用されているほか、身近なものではがん具煙火にいたるまで様々な種類があり、多岐にわたって利用されている。

しかし、その取扱いによっては大事故につながる恐れがあり、製造から消費にいたるまで厳しく規制を行うなど、安全性の確保が強く要求されている。

本県においては、県公安委員会と密接な連携のもとに立入検査による法の厳格かつ適切な運用、さらに、取扱う者自らによる自主保安体制づくりが、事故予防上重要であることから、危害予防週間を通じ保安意識の啓蒙と普及に努めている。

また、許認可については、県では危機対策・防災課の他、奥越農林総合事務所、嶺南振興局で行っているが、煙火および空包の許可については、平成8年度から県内各市町（消防本部）で行っている。

第1表 火薬類関係事業所等数

平成30年3月31日現在
(単位：件)

販売業者	火薬・爆薬および火工品	8
	競技用紙雷管	28
	合計	36
火薬庫	1級火薬庫	14
	2 "	0
	3 "	2
	煙火 "	5
	実包 "	2
	合計	23
庫外貯蔵所	販売業者所有	10
	その他所有	10
	合計	20

第2表 銃砲関係事業所数

業 種	事業所数
販 売	1
製造（修理・改造のみ）および販売	3
計	4

第3表 火薬類（爆薬）の消費量の推移

(単位：t)

年度 \ 業種	鉦山	石灰石	土木	採(砕)石	その他	合計
23	14	6	437	64	0	521
24	13	5	134	60	0	212
25	11	4	1	62	1	79
26	11	4	68	57	0	140
27	15	5	387	68	0	475
28	9	2	508	79	0	598
29	9	3	694	86	1	783

第4表 火薬類取扱および丙種火薬類製造保安責任者試験実施状況

種 別	出願者数(人)	受験者数(人) (A)	合格者(人) (B)	合格率(%) (B/A)
甲 種	104	102	55	53.9
乙 種	20	17	10	58.8
丙 種	0	0	0	—
計	124	119	65	54.6

会場：9月3日（日）福井県中小企業産業大学校

第5表 平成29年度火薬類保安講習関係講習会実施状況

講習会名	回数(回)	受講者数(人)
火薬類取扱者保安教育講習会	7	598
火薬類取扱者保安再教育講習会	1	9
火薬類取扱保安責任者養成講習会	1	37
煙火消費保安講習会	1	85

第6表 平成29年度火薬類申請等の状況

(1) 県許可申請等

区 分	種 別		件 数 (件)
危機対策・防災課	譲 受	火工品のみ	0
		25kg以下	2
		上記以外	21
	譲 渡		5
	火薬庫設置		0
	火薬庫変更		0
	火薬庫完成検査(設置)		0
	" (変更)		0
	火薬庫保安検査		10
	免状交付		65
	免状再交付		0
	販売営業		0
	計		103
総合事務所 奥越農林	譲 受	火工品のみ	0
		25kg以下	1
		上記以外	8
	譲 渡		0
	計		9
地域振興室 若狭観光 嶺南振興局	譲 受	火工品のみ	1
		25kg以下	1
		上記以外	10
	譲 渡		7
	計		19
地域振興室 一州観光 嶺南振興局	譲 受	火工品のみ	0
		25kg以下	0
		上記以外	10
	譲 渡		8
	計		18
合 計		149	

(2) 市町許可申請等

消防(局)本部名	種 別			件 数
	煙火消費	空包譲受	空包譲渡	
福 井 市	8	0	0	8
大 野 市	3	0	0	3
勝 山 市	3	0	0	3
永 平 寺 町	1	0	0	1
嶺北消防組合	6	0	0	6
鯖江・丹生消防組合	4	0	0	4
南越消防組合	6	0	0	6
敦賀美方消防組合	10	0	0	10
若狭消防組合	12	0	0	12
計	53	0	0	53

第7表 平成29年度事故発生状況

なし